

第3次飯塚市総合計画 策定経過報告

目次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 1. 第2次総合計画における目標達成指標の進捗状況 | 1 |
| (1) 目標達成指標の進捗状況の概要 | 1 |
| (2) 各施策の目標達成状況 | 1 |
| 2. 市民意識調査調査の結果概要 | 13 |
| (1) 調査の概要 | 13 |
| (2) 回答者の属性 | 14 |
| (3) 調査結果 | 15 |
| 3. まちづくり意向調査の結果概要 | 23 |
| (1) まちづくり意向調査の実施概要 | 23 |
| (2) 調査結果 | 24 |
| 4. 市民ワークショップの結果概要 | 30 |
| (1) ワークショップの実施概要 | 30 |
| (2) ワークショップの実施状況 | 31 |
| (3) 中学生ワークショップの結果 | 33 |
| (4) 市民ワークショップの結果 | 34 |
| 5. 第3次総合計画策定に向けての現状と課題の整理(まとめ) | 35 |

1. 第2次総合計画における目標達成指標の進捗状況

(1) 目標達成指標の進捗状況の概要

「第2次飯塚市総合計画」(以下「第2次総合計画」という。)を平成29年3月に策定し、将来像「人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住みつづけたいまち」の実現に向けて、7つの政策分野と40の施策目標を掲げています。

さらに第2次総合計画では、目標の「達成度を測る指標」として、114項目の目標達成指標を設定し、着実な計画推進を図っていくこととしています。

第3次飯塚市総合計画(以下「第3次総合計画」という。)の策定に向けて、第2次総合計画におけるこれまでの取り組みの成果や残された課題を明らかにし、今後のまちづくりに活かしていくため、計画に位置づけられた施策の実施状況の検証を行い、取りまとめましたので報告いたします。

(2) 各施策の目標達成状況

目標達成指標の進捗状況については、指標一つ一つを対象に、その成果がどれくらい達成されているか、どれだけ進んでいるかを4段階で評価しています。

令和6年度末時点の進捗状況に基づく評価結果については下記のとおりで、なお、達成していない項目については、引き続き最終目標の達成に向けて取り組んでいくこととしています。

| 評価 | 達成率 (現状値/目標値)×100 | 指標数 | 割合 |
|----|----------------------|-----|--------|
| A | 100%以上 | 40 | 34.2% |
| B | 80%以上 100%未満 | 29 | 26.3% |
| C | 60%以上 80%未満 | 27 | 23.7% |
| D | 60%未満 | 12 | 10.5% |
| — | 達成度の判定ができないもの | 6 | 5.3% |
| 計 | | 114 | 100.0% |

政策目標別の状況をみると、分野による大きな差は見られませんが、行政経営分野においてA評価が多くなっています。

| 評価 | 第1章 人権 市民参画 | 第2章 行政経営 | 第3章 健幸 子育て | 第4章 地域経済 | 第5章 教育 文化 | 第6章 都市基盤 生活基盤 | 第7章 自然環境 | 計 |
|----|-------------------|-------------|------------------|-------------|-----------------|---------------------|-------------|-----|
| A | 2 | 6 | 9 | 4 | 7 | 9 | 3 | 40 |
| B | 3 | 2 | 3 | 2 | 9 | 8 | 2 | 29 |
| C | 3 | 1 | 7 | 6 | 6 | 2 | 2 | 27 |
| D | 1 | 0 | 2 | 2 | 4 | 1 | 2 | 12 |
| — | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 6 |
| 計 | 11 | 9 | 21 | 16 | 28 | 20 | 9 | 114 |

第1章 人権・市民参画

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|-------------------|----------------------------------|------|--------------|-------------|-------------|----------|---|
| 1-1.人権尊重のまちづくりの推進 | 人権教育・啓発の講演会等参加者数 | 人 | 10,783 | 10,194 | 13,000 | C | 新型コロナウイルス感染症の流行以前の状況までに回復しているが、目標値の達成への進捗は8割~9割となる見込みである。 |
| | 人権教育・啓発講演会等の内容を理解している参加者の割合 | % | 69.2 | 91.5 | 90.0 | A | 基準値では、理解度以外の満足度等の回答を合わせた回答割合としていたが、その後、講演会の理解度のみの回答を集計しているため、基準値と目標値の開きがある。目標値は順調に達成している。 |
| 1-2.男女共同参画の推進 | 市の目標審議会等女性委員の割合 | % | 31.3 | 38.0 | 40~60 | B | 審議会委員の推薦依頼前に事前協議を実施し、女性の比率が40%以下の場合は、可能な限り女性委員の割合を増やす旨の協議を実施している。 |
| | 地方自治法第202条の3に基づく市の審議会等女性委員の割合 | % | 28.1 | 37.8 | 40~60 | B | 現行プランは5年計画の3年を経過したところであり、未達成の目標も年々数値は向上してきている。 |
| | 性別による固定的役割分担の考え方を否定する市民の割合 | % | 58.9 | - | 75 | - | <男女共同参画に関する市民意識調査結果による評価指標。R7年度調査実施。R8.4月以降調査結果公表予定。> |
| | 地域活動の場で、男女の地位が「平等になっている」と思う市民の割合 | % | 27.6 (R3) | - | 50 | - | <男女共同参画に関する市民意識調査結果による評価指標。R7年度調査実施。R8.4月以降調査結果公表予定。> まちづくり協議会の女性役員割合が20%未満の地域を減らす取組を行っており、現在5~6地域程で推移しているが、目標値である0地域を達成するため、出前講座等を実施している。 |
| 1-3.協働のまちづくりの推進 | 地区公民館のコミュニティセンター(仮称)化 | 館 | 0 | 12 | 12 | A | 目標値を維持している。 |
| | 自治会加入率 | % | 62.0 | 48.2 | 72.0 | C | 新型コロナウイルス感染症の流行以降、人と必要以上に繋がる必要性を感じなくなっている市民が増加したことや、高齢化の影響が、自治会加入率の減少の主な理由である。 |
| | 交流センターの指定管理導入 | センター | 0 | 0 | 3 | D | 令和8年4月から2センター導入を開始しており、今後も交流センターの指定管理導入を進めていきたい。 |
| 1-4.情報共有の推進 | ホームページアクセス数 | 件 | 4,300,022 | 4,833,897 | 6,900,000 | C | HPのアクセス件数は新型コロナウイルス感染症の流行時期には閲覧が目標指数を上回るも、5類移行後は減少の一途である。10年以上HPのリニューアルがなされずスマホでの視認性が悪い点などから改善を要すると考えている。 |
| | 市民意見募集1事案当たりの提言の件数 | 件 | 6 | 10 | 12 | B | 市民意見募集を行う案件によって提言件数に大きく差があり提言の件数にもばらつきが発生するため、実績値を安定して増加させるのは難しいと考える。 |

第2章 行政経営

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|----------------------|------------------------|----|--------------|-------------|-------------|----------|--|
| 2-1. 効果的・効率的な行政経営の推進 | 行財政改革単年度効果額 | 億円 | 4.2 | 43 | 11.3 | A | 平成 25 年 9 月に策定した「第二次行財政改革前期実施計画」を基に基準値及び目標値を設定。現状値については、令和 5 年度に策定した「飯塚市行政経営戦略推進ビジョン」「飯塚市行政経営戦略推進プラン」が計画初年度のため、効果が出ている取組項目は少ないが、財政の改革において、目標を上回る効果が出ている。その主な要因は、ふるさと応援寄附金の増加とミッドナイトオートレースの継続によるもの。 |
| | 市民サービスの向上に繋がる公民連携事業数 | 件 | 14 (R2) | 44 | 45 | B | 公民連携に関する全国的関心の高まりにより、民間事業者から多くの提案がなされたことが考えられる。ただし、連携事業はすべて民間事業者の発案によるものであり、市の発案によるものはなかった。そのため、市が抱える優先順位の高い課題の解決につながったとは評価できない。 |
| 2-2. 公共施設等の最適化と有効活用 | 公共建築物の延床面積 | 万㎡ | 70.0 | 67.72 | 65.5 | B | 公共建築物の延床面積について、現計画の策定期間である平成 28 年度から現在までの取り組みとして、学校施設や体育館の統合、公営住宅の廃止、交流センター機能を他の施設と複合化することなどにより、延床面積の縮減を行ってはいるが、計画期間内に廃止や縮減する施設（特に公営住宅）の進捗が遅れており、目標に達していない。 |
| | 未利用財産から利活用財産への転換面積 | 万㎡ | 1.5 | 29.63 | 15.0 | A | メールマガジンによる未利用財産の情報発信等、積極的に未利用財産から利活用財産への転換を進めている。 |
| 2-3. 財政の健全化 | 単年度収支 | 千円 | 1,832,154 | 1,010,367 | 黒字 | A | 単年度収支は概ね黒字を維持しているものの、今後も人口減少という構造的な問題を抱える中で財政の健全性を維持していくためには、歳入の確保と歳出の削減に向けた具体的な取り組みが必要である。 |
| | 市税等滞納（未収金）総額の減額 | 千円 | 2,940,285 | 1,948,359 | 2,270,000 | A | 債権管理条例の施行に伴う債権管理委員会の創設、各債権所管課における債権台帳の整備など、債権の適正管理に必要な方針を打ち出すなど一定の成果を上げることができ、市税等滞納（未収金）総額の減額の目標値を達成した。 |
| | 財政調整基金と減債基金（一般会計）の基金残高 | 千円 | 14,772,057 | 15,279,046 | 6,400,000 | A | 基金残高については、現時点においておおむね適正水準を維持していると認識している。今後は、中長期的な財政見通しおよび歳入歳出の動向を踏まえ、計画的かつ規律ある積立・活用を徹底し、財政健全化の目標達成に向けて適切に管理していく。 |
| 2-4. 職員の能力開発と人材育成の推進 | 人事評価結果が「B評価」以上の職員割合 | % | 90.4 | 96.6 | 95.0 | A | 人事評価に関する指標については職員の適切な職務遂行に加え人事評価制度の習熟もあり、毎年度概ね目標を達成している。 |
| | 派遣研修受講率 | % | 17.0 | 15.6 | 20.0 | C | 派遣研修受講率については目標値に若干達していないが、派遣職員の研修内容の業務への活用度は高い（83%）ことから、職員の能力開発に一定の成果は出ているものと捉えている。 |

第3章 健幸・子育て

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値(H27) | 現状値(R6) | 目標値(R8) | 達成状況 | 評価コメント |
|------------------------|-------------------------|----|--|--|---------------------|------|--|
| 3-1. 健幸都市づくりの推進 | 健康寿命の延伸 | 年 | 男性:1.46 女性:3.21 (平均寿命) 男性 80.47 歳 女性 86.24 歳 (健康寿命) 男性 79.01 歳 女性 83.03 歳 | 男性:1.41 女性:2.99 (平均寿命) 男性 79.62 歳 女性 85.48 歳 (健康寿命) 男性 78.21 歳 女性 82.49 歳 (R5) | 平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加 | A | 平均寿命と健康寿命の差(=不健康期間)は0に近いほど理想的であり、前回よりも今回算定数値が低いことから、健康寿命は延伸傾向にある。 |
| | 1人あたり医療費(国民健康保険) | 円 | 385,292 | 458,063 (R6までの平均伸び率:1.98%) | 平均伸び率:2.27%以下 | A | 1人あたりの医療費は増加傾向にあるが、医療の高度化等が理由であり、国の平均伸び率も同様の傾向となっており、本市の保健・医療の連携が医療費増加抑制につながっている。 |
| | 1人あたり医療費(後期高齢者医療) | 円 | 1,122,115 | 1,144,820 (R6までの平均伸び率:0.25%) | 平均伸び率:0.84%以下 | A | 1人あたりの医療費は増加傾向にあるが、医療の高度化等が理由であり、国の平均伸び率も同様の傾向となっており、本市の保健・医療の連携が医療費増加抑制につながっている。 |
| | 「健幸都市いづか」関連事業参加者数(延べ人数) | 人 | 33,947 | 52,068 | 71,000 | C | R6でヘルスケアプロジェクト事業に対する国庫交付金の交付期間が終了となったが、適切な事業規模に見直しを行い、事業の継続を行い、健幸都市いづかの実現を目指す。また、目標の達成を目指し各種教室・講座を開催している。 |
| 3-2. 保健・医療の充実と連携 | 特定健診受診率 | % | 47.3 (H25~H27年度平均) | 42.5 | 60.0 | C | 特定健診受診率は、目標値には未達であるものの、県平均(34.4%(R4))よりは高い水準を維持している。また、新型コロナウイルス感染症の流行による影響もあり、R2年度には39.7%まで受診率が減少していたが、現在は回復基調にある。 |
| | 特定保健指導率 | % | 79.6 (H25~H27年度平均) | 78.1 | 80.0 | B | 目標値を概ね達成しており、R6の実績値(78.1%)は、県内の同規模自治体の中では、1位の成績である。 |
| | 市立病院の救急車受入件数 | 件 | 1,706 | 3,079 | 2,000 | A | R4に関係大学から救急専門医を招聘して救急部を発足し、R4年8月には救急科を標榜する等、救急体制の強化を行ったことが、前倒しの目標達成につながったものと評価できる。 |
| | 急患センターの1日平均患者数 | 人 | 5.5 | 15.8 | 21.0 | C | R2~4年度に新型コロナウイルス感染症の流行による飯塚急患センターの受診控えが発生したが、同感染症がR5年5月に5類へと移行したことで、R5、R6にインフルエンザ等の感染症が流行したことに伴い、受診者数は新型コロナウイルス感染症の流行以前の数値付近に戻りつつある現状である。今後も感染症等の流行状況を鑑み、関係機関と協議のうえ、診療体制を構築していく。 |
| 3-3. 高齢者が安心して暮らせるまちづくり | 地域包括支援センターの設置数 | 箇所 | 1 | 11 | 10 | A | R1年度より、市直営の包括支援センターを廃止して、全ての日常生活圏域において地域包括支援センターを委託して設置した。 |
| | 認知症サポーター数 | 人 | 7,954 | 14,115 | 18,000 | C | 認知症サポーターの養成を通じ、企業や学校等で認知症に対する正しい知識の普及啓発に取り組んでいる。 |

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|------------------------|----------------------------------|----|---------------|-------------|-------------|----------|--|
| 3-3. 高齢者が安心して暮らせるまちづくり | フレイル予防サポーター数 | 人 | 0 | 103 | 240 | D | 新型コロナウイルス感染症の流行による影響もあり、実績が伸びていないが、今後は養成を継続実施していきつつも、各サポーターの活動に重点を置いていく。 |
| 3-4. 子育て支援の推進 | 合計特殊出生率 | 人 | 1.72 (H26) | 1.46 | 1.76 | B | 県内において、本市の合計特殊出生率は7番目に高く、比較的高水準となっている。第2子の出生者数の増加が課題であり、共働きの支援や子育て支援の拡充を図る。 |
| | 子育てしやすいまちと評価する人の割合 | % | 41.0 (H25) | 34.2 | 60.0 | C | 市民意識調査による子育てしやすいまちと評価する人の割合は目標値に及ばず、現在の子育て世帯のニーズに応じた施策について今後も検討していくものである。また、飯塚市の子育て環境についてより市民に発信していくことも必要である。 |
| | 乳幼児健診受診率 | % | 95.8 | 96.5 | 96.0 | A | 乳幼児健診受診率について近年目標値を上回った状況が継続できている。 |
| | 母子及び児童等相談件数 | 件 | 385 | 532 | 450 | A | 相談件数について近年目標値を上回った状況が継続できている。 |
| 3-5. 安心して産み育てやすい環境づくり | 支給認定を受けた未利用児童数 | 人 | 116 | 31 | 0 | C | 支給認定を受けた未利用児童数については、減少傾向であるが、最終的には、0人としたい。対象は、(特定の園を希望している場合など)第4希望まででの未利用児童数である。 |
| | 放課後児童クラブ入所者数 | 人 | 1,837 | 2,372 | 2,101 | A | 児童クラブ入所者数が年々増加しており、2019年から目標値を超えているが、待機児童なしを継続できている。児童数増加による支援員の負担増や特別な配慮を要する児童の対応についての課題については今後も委託先と協議しながら対応を検討する。 |
| 3-6. 障がい者福祉の充実 | グループホーム居住の自立支援対象者数 | 人 | 197 | 356 | 350 | A | グループホームの施設数、グループホーム居住の自立支援対象者数ともに増加している。 |
| | 手話奉仕者養成講座基礎課程修了者数 | 人 | 20 | 179 | 255 | C | 手話奉仕者養成講座の受講者数は増加している。飯塚市、嘉麻市、桂川町で連携して、手話の周知活動を行っている。また、基礎課程修了後には、実践講座もあり、市主催の手話フェスティバルで手話を披露する場もある |
| 3-7. 安心して暮らせる地域づくり | 地域福祉の担い手数 | 人 | 9,700 | 17,075 | 20,500 | B | 地域福祉の担い手数未達成の主な要因は、新型コロナウイルス感染症の流行による地域活動の停滞や対面支援の制限で住民間のつながりや交流の場の運営が困難であったこと、また、自治会や福祉団体の役員等の高齢化と後継者不足により、担い手の世代交代が進まなかったことが考えられる。 |
| | 校区(地区)社会福祉協議会における地域福祉活動計画策定支援地区数 | 地区 | 0 | 3 | 18 | D | 地域福祉活動計画については、市と社会福祉協議会の間で計画支援に関する連携や協議が不足し、増加に至らなかったものと考えられる。 |

第4章 地域経済

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|------------------------|--|----|----------------|-------------|-------------|----------|--|
| 4-1.農林業 の振興 | 担い手農家への農 地集積率 | % | 26.6 | 35.2 | 45.0 | C | 就農者の高齢化や担い手不足を補うた め、集落営農組織化は一定数進んでい るが、担い手農家への農地集積率は未 達である。耕作のしやすい条件の良い優 良農地ほど地権者が手放さない傾向が あり、地域として農地集積率は上がって いない。 |
| | 集落営農組織及び 農事組合法人数 | 組織 | 15 | 24 | 20 | A | 就農者の高齢化や担い手不足を補うた め、集落営農組織化は一定数進んでい る。 |
| | 日本型直接支払制 度取組組織数 | 組織 | 74 | 50 | 85 | D | 日本型直接支払制度取組組織について は、構成員の高齢化や後継者・担い手不 足などにより、組織数が減少してきてい る。 |
| | 森林経営計画作成 件数 | 件 | 9 | 16 | 20 | B | 森林経営計画作成件数については、市と 民間事業者との間で協定を締結し、市有 林の整備に関して森林経営計画を作成し ており、目標に向けて今後も計画を作成し ていく予定である。 |
| 4-2.地場産 業の振興 | 市内新規雇用創出 人数 | 人 | 92 | 695 | 延 623 | A | 目標値を達成している。要因としては、本 市の立地環境の良さが挙げられる。また、 大型商業施設の設置も雇用の増加の要 因である。 |
| | 企業誘致等支援数 (新設・移設・増 設) | 社 | 7 | 79 | 延 41 | A | 工場や商業施設の新設が行われた。現 状、企業を誘致する土地が充分にないた め、今後は民間の土地等を活用すること も考えている。R10 年以降に未利用地を 活用して、新規の工業団地を整備する予 定である。また、企業誘致時の交付され る補助金は R6年度以降拡大した。 |
| 4-3.創業促 進と産業の 創出 | プロジェクト創出 件数 | 件 | 10 | 128 | 延 110 | A | プロジェクト創出件数が伸びている要因 としては、販路開拓支援補助金等の補助 金活用が挙げられる。 |
| | インキュベーション 支援事業を活用し た創業件数及びイ ンキュベーション施 設等入居件数 | 件 | 5 | 35 | 延 57 | C | 市の施設のみならず、民間施設の新規入 居希望件数も減少傾向にあり、市の施設 特有の傾向ではない。一方で、働き方改 革によるサテライトオフィス需要の増加、 大学によるスタートアップ創出の取組み 活性化などの傾向がある。 |
| 4-4.商業の 振興 | 市内卸・小売業者 年間販売額 | 億円 | 2,291 (H26) | - | 基準値以上 | - | <次回、経済センサス発表はR9年度結果 公表(R8.6.1 基準日調査)> 事業主の高齢化や R2 年に始まった新型 コロナウイルス感染症の流行が影響し、 事業所数が減少していることが予測され る。 |
| | 市内卸・小売事業 所数 | 所 | 1,371 | - | 基準値以上 | - | <次回、経済センサス発表はR9年度結果 公表(R8.6.1 基準日調査)> 外出自粛が続く中で EC サイトの利用増 などの新型コロナウイルス感染症の流行 に伴う特需により年間販売額の大幅な減 少はなく、基準値を上回っていると考えら れる。 |

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|---------------------------------|--------------------------------|----|----------------|-------------|-------------|----------|---|
| 4-5.観光の 振興 | 観光客消費額 | 億円 | 57.6 (H26) | 62.4 | 95.0 | C | これまでの観光消費額は、主要観光施設利用状況調査の数値を活用しているが、指標として使用して、実情を表すことができる数値が疑義がある。そのため、飯塚市としての調査方法を確立し、調査を継続して実施する必要がある。 |
| | 観光入込客数 | 万人 | 216.8 (H26) | 233.3 | 355.0 | C | これまでの観光入込客数は、主要観光施設利用状況調査の数値を活用しているが、指標として使用して、実情を表すことができる数値が疑義がある。そのため、飯塚市としての調査方法を確立し、調査を継続して実施する必要がある。 |
| | 観光ルート件数 | 件 | 11 | 29 | 30 | B | 新型コロナウイルス感染症の流行を経て、団体から個人へ旅行形態が変わってきており、観光客のニーズが多様化し、観光ルートを巡る人も減少している。 |
| | ブランド認定製品 件数 | 件 | 0 | 32 | 50 | C | ブランド認定製品件数は増加傾向にあるが、ブランドの維持のためには一定の質の確保が必要である。 |
| 4-6.就労支 援の充実と 労働環境の 整備 | 若者仕事サポート センター筑豊ブラ ンチ就職者数 | 人 | 44 | 38 | 55 | C | 新型コロナウイルス感染症の流行により相談者数が激減し、飲食店などの休業に伴い有効求人倍率も減少した。また、近年はインターネットによる就職活動も増え、筑豊ブランチの利用者は減少傾向にあるため、当サービス活用による就職者数が減少した。しかしながら、就職活動において支援を必要とする方への対面によるサポートを継続し、1人でも多くの就職につなげていく必要がある。 |
| | 若者仕事サポート センター筑豊ブラ ンチ相談者数 | 人 | 560 | 257 | 670 | D | 新型コロナウイルス感染症の流行により相談者数が激減し、飲食店などの休業に伴い有効求人倍率も減少した。また、近年はインターネットによる就職活動も増え、筑豊ブランチの利用者は減少傾向にある。しかしながら、就職活動において対面による支援を必要とする方へのサポートを継続し、1人でも多くの就職につなげていく必要がある。 |

第5章 教育・文化

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|-------------------------------|--|------|------------------|----------------|----------------|---|---|
| 5-1.人権を尊重する豊かな心・健やかな体を育む教育の推進 | 新体力テスト全国平均値突破項目 | コマ | 58/144 | 54/144 | 72/144 | C | 近年、目標値に届いていない年が多く、新型コロナウイルス感染症の流行以降、大きな改善が見られていない。今後も体育科授業を中心に、運動の楽しさを味わわせ、自ら運動に取り組む姿を追求していく。 |
| | (小)全国学力・学習状況調査における「学校に行くのが楽しいと思う」児童の割合 | % | 81.9 | 78.7 | 87.0 | B | 遅刻や不登校が増えている現状からも特色のある楽しい学校・学級づくりを進め、子どもが楽しく学校へ通うことができるようにしていく。 |
| | (中)全国学力・学習状況調査における「学校に行くのが楽しいと思う」生徒の割合 | % | 79.2 | 84.0 | 85.0 | B | 遅刻や不登校が増えている現状からも特色のある楽しい学校・学級づくりを進め、子どもが楽しく学校へ通うことができるようにしていく。 |
| | 学校教育の充実に関して満足している市民の割合 | % | 73.5 | アンケート実施無し | 80.0 | - | <アンケート実施無しのため現状値なし> 令和7年度は、飯塚市教育フォーラムにおいて、アンケートを実施し、学校教育の充実に関して満足している市民の割合を把握する。 |
| 5-2.確かな学力を育む教育の推進 | (小)全国標準学力検査NRT(国語、算数)の正答率※全国平均を100とする。 | % | 110.0 | 103.8 | 115.0 | B | 毎年全国平均を上回っているが、各学校によって、ばらつきがあるため、組織的な対応を強化していく必要がある。 |
| | (中)標準学力分析検査(国語、数学)の正答率※県平均を100とする。 | % | 100.8 | 98.6 | 105.0 | B | フクト公開実力テスト会で学力分析を行っている。全国平均を下回っており、基礎基本の確実な定着を図る必要がある。 |
| | (小)全国学力・学習状況調査の正答率※全国平均を100とする。 | % | 99.8 | 105.6 | 100.4 | A | 中学校における数学科の振り返りテストの取組や小学校の徹底反復学習を市内で徹底実施し、基礎基本の確実な定着を図る必要がある。 |
| | (中)全国学力・学習状況調査の正答率※全国平均を100とする。 | % | 98.3 | 93.5 | 100.4 | B | 中学校における数学科の振り返りテストの取組や小学校の徹底反復学習を市内で徹底実施し、基礎基本の確実な定着を図る必要がある。 |
| | 乗り入れ授業を実施している中学校区数 | 校区 | 8 | 5 | 10 | D | 新型コロナウイルスの流行を機に減少傾向にあるが、小中一貫校を中心に、より活発に実施されるよう働きかける必要がある。 |
| | 協調学習にかかわる授業を実施している学校の割合 | % | 小 22.7 中 40.0 | 小 100 中 100 | 小 100 中 100 | A | 目標値を常に達成できている。 |
| MIMアセスメントにおいて3rd ステージ対象児童の割合 | % | 10.0 | 15.3 | 5.0 | D | 基礎基本の内容について、定着が不十分な現状が見られる。小学生1年生からの基礎的な言語能力や簡単な計算について、確実な習得が求められる。 | |
| 5-3. 子ども・若者の健全育成 | 青少年健全育成事業参加者数 | 人 | 710 | 493 | 800 | C | コロナ禍以前は目標値を達成した年度もあったが、令和2年度～令和3年度中止した影響で参加者数が大きく減少した。令和4年度以降は、参加者が増加傾向である。 |
| | 放課後子ども総合プラン実施校 | 校 | 0 | 19 | 18 | A | すべての小学校区において、放課後子ども教室を実施することができている。地域住民と協力しながら、学校の空き教室を活用し、週2回程度実施している。 |
| | 子ども・若者の健全育成に関して満足している市民の割合 | % | 76.8 | 72.0 (R7) | 80.0 | B | 子ども・若者を対象とした相談窓口等の充実と関係機関との連携強化による健全育成の推進が必要と考えられる。 |

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|---------------------|--------------------------|-----|-----------------------------|--------------|-------------|----------|---|
| 5-4.生涯学習の振興 | 生涯学習講座等参加者数 | 人 | 68,051 | 73,435 | 85,000 | B | 生涯学習講座においては、幅広い市民の方へ学習機会の提供を行うために、各講座の満足度や求められている情報の分析と開催方法や周知方法等の見直しが必要である。 |
| | 図書館来館者数 | 人 | 649,623 | 271,723 | 650,000 | - | 〈同一人物が同一日に複数回訪れた場合、複数回来館した数値を基準値とし、そこから目標値を設定していたが、現在は図書館システム変更により、同じ方法での来館者数の計測ができず増減が不明のため、評価不能。〉 |
| | 学習ボランティア講師派遣人数 | 人 | 2,253 (R1) | 3,213 | 2,500 | A | 児童クラブ及び学校への周知を強化したことにより、近年大幅に増加している。学校の書道や音楽、部活の指導に協力していただき、学習ボランティアの登録者数は 2,000 人程度である。 |
| 5-5.スポーツの振興 | 市営スポーツ施設利用者数 | 人 | 559,000 | 603,172 | 570,000 | A | 令和 5 年度の総合体育館及び令和 6 年度のグラウンドゴルフ場の建設や各体育施設の改修工事を実施した結果、スポーツ施設利用者数は当初の目標を達成した。 |
| | スポーツ推進委員数 | 人 | 42 | 30 | 52 | D | 勧誘を行っているが、現役世代の委員が集まりづらい。高齢化による退職もあり、数字が伸び悩んでいる。今後、日中に参加いただけるようなボランティア組織への切り替えを検討している。 |
| | 総合型地域スポーツクラブ設立数 | クラブ | 3 | 3 | 6 | D | 総合型地域スポーツクラブについては、現状維持となっており、目標達成には至らなかった。 |
| 5-6.文化芸術の創造 | 飯塚市文化会館入場者数 | 人 | 242,916 | 175,290 | 250,000 | C | 新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられ、徐々に回復していく見込み。 |
| | 飯塚文化連盟会員数 | 人 | 6,000 | 6,495 | 基準値以上 | A | 会員の高齢化が進んでいるため、若年層の引き込みが必要になると考えられる。 |
| | 文化・芸術に関して満足している市民の割合 | % | 81.5 | 64.2 | 基準値以上 | C | 市民の方が気軽に文化に触れることができる機会を増やし、文化芸術を身近に感じてもらい、関心を持っていただくことが重要だと考えられる。 |
| 5-7.歴史的・文化的遺産の保護と活用 | 指定文化財数 | 件 | 49 (国 5 県 15 市 29) | 54 | 54 | A | 計画的な調査を実施した結果として、目標達成出来たと考えられる。 |
| | 文化財の保護と活用に関して満足している市民の割合 | % | 89.4 | 80.8 (R7) | 基準値以上 | B | 満足度は元来高い水準にあるが、令和元年以降にデジタルミュージアムの整備等も実施した事を踏まえても基準値に達していないため、これらを活用した事業や広報活動にも力を入れる必要がある。 |
| 5-8.国際交流・多文化共生の推進 | 国際交流事業参加者数 | 人 | 1,200 | 1,577 | 2,000 | C | 新型コロナウイルス感染症の収束以降回復傾向にある。 |
| | 国際交流関係団体で活動しているボランティア数 | 人 | 290 | 270 | 350 | C | 国際交流推進協議会の加盟団体において、平成 27 年度から 28 年度にかけ参加者が大幅に減少したこともあり、現状が基準値以下となっているが、平成 28 年度以降は増加傾向にある。 |
| | 国際交流に関して満足している市民の割合 | % | 82.8 | 81.7 | 基準値以上 | B | 国際交流イベントで、満足度についてのアンケート結果で若干の上下はあるものの、毎年、基準値と同程度の満足度となっている。 |

第6章 都市基盤・生活基盤

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|-------------------|-------------------------|----|--------------|--------------|-------------|----------|---|
| 6-1. 災害・減災対策の充実 | 自主防災組織活動カバー率 | % | 62.0 | 88.8 | 100.0 | B | 穂波地区においては自治会や校区単位の活動が中心で、他地域と異なりまちづくり協議会での自主防災組織を結成していないことが未達成原因として挙げられる。水害や土砂災害のハザードに該当しない地域も含めた防災意識の高揚を図る必要がある。 |
| | 防災に関する訓練・研修の実施回数 | 回 | 11 | 19 | 25 | C | 訓練や研修については自主防災活動を促進することを目的としており、目的の周知徹底と計画的な実施が必要である。 |
| 6-2. 消防・救急体制の充実 | 消防団員充足率 | % | 87.3 | 73.0 | 94.0 | C | 2023年に総務省からの通知を受けて、消防団に属していながら、殆ど活動を行っていない団員の整理を行ったことで、消防団員充足率が著しく低下した。 |
| | 消防団による災害出動率 | % | 100.0 | 100.0 | 基準値を維持 | A | 100%の基準値を維持している。 |
| 6-3. 生活安全の向上 | 地域防犯団体数 | 団体 | 88 | 65 | 125 | D | 地域防犯団体数については、一時新型コロナウイルス感染症の流行で活動が制限され、そのまま解散した団体や活動実態のない団体などもあり 2023年に一度整理を行った経緯がある。 |
| | 刑法犯認知件数 | 件 | 1,533 | 852 | 1,200 | A | 基準値から大きく減少しているが、警察署による積極的な見回りなど防犯活動の結果と考えられる。 |
| | 防犯灯設置本数 | 本 | 12,018 | 12,515 | 12,898 | B | 自治会等からの要望などに基づき設置しており、また LED リース事業にも取り組んでいるため増加している。 |
| | 交通事故発生件数 | 件 | 1,157 | 427 | 900 | A | 警察署と連携した見守りなどにより着実に減少している。 |
| 6-4. 計画的な土地利用の推進 | 市街化の抑制(地目別面積:宅地面積) | ha | 2,744 | 2,833 | 2,837 | B | 学校周辺の開発が進んでいる。 |
| | 農地の保全(農用地面積) | ha | 2,252.8 | 2,091.7 | 基準値を維持 | B | 住宅や商業施設等の建設のため、農地転用が進んでいる。 |
| 6-5. 定住環境・公共交通の充実 | コミュニティ交通利用者数 | 人 | 75,513 | 105,450 | 100,000 | A | 令和5年度時点で目標は達成している。今後も利用促進につながるような周知・啓発活動を継続するとともに、更なる利用者増加のための方策を検討する。運行体系の見直しを行ったことが増加の要因となっている。 |
| | 社会増減の純移動率 | % | 0.0 | 2.6 | 基準値以上 | A | 県事業と連携した移住支援金制度などの移住支援策もあり移住が促進されている。 |
| 6-6. 公園・緑地の整備 | 公園・緑地の整備に関して満足している市民の割合 | % | 84.6 | 77.4 (R7) | 基準値以上 | B | 新たな公園の開設や老朽化した施設の更新・修繕を実施してきたものの、整備内容に関する情報発信が十分でなかったことに加え、市民ニーズの変化や整備対象の偏り、維持管理や利用環境への評価などが影響し、整備の成果が市民の満足度向上に繋がらなかったものと考えられる。 |

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|------------------|--|----|----------------|-------------|-----------------|----------|--|
| 6-6.公園・ 緑地の整備 | 公園管理面積(再 編・統合集約・機能 分担・用途変更によ る) | ha | 192.29 (R1) | 193.96 | 173.04 (R11) | B | 公園の利用頻度や地域特性、誘致圏の 重複を踏まえ、施設の再編・統合集約や 機能分担、用途変更を進めてきた。一方 で、令和2年度の目尾における用途変 更により、結果として管理面積は増加し た。 |
| 6-7.道路の 整備 | 都市計画区域内の 都市計画道路整備 率 | % | 46.4 | 50.5 | 50.0 | A | 計画的な整備を進めており、同時に計 画路線の見直しも実施している。 |
| | 橋りょう補修の累計 実施数 | 橋 | 2 | 39 | 25 | A | 既に目標値(2026)を達成している。今 後も、耐用年数60年を経過する橋りよ うの補修を継続的に実施する。 |
| | 道路路側帯グリーン ベルト整備延長距離 | m | 1,160 | 9,446 | 5,000 | A | 既に目標値(2026)を達成している。今 後も、道路路側帯グリーンベルトの整備 を継続的に実施する。 |
| 6-8.上下水 道の整備 | 有収率 | % | 88.0 | 85.8 | 90.0 | B | 水道管の老朽化ペースに更新が追いつ いておらず、有収率の改善には至ってい ない。 |
| | 下水道整備率(普及 率) | % | 45.8 | 47.1 | 50.0 | B | 下水道整備率については、交付金の影 響による事業量の減少や人口減少に伴 い、微増傾向であるため、2026の目標 達成は、困難であると考えている。 |
| | 水洗化率 | % | 87.3 | 91.8 | 91.0 | A | 水洗化率は、イベントでの水洗化PRや 補助金制度の周知等により増加傾向に あり、現時点で目標値を達成している。 |

第7章 自然環境

| 施策 | 目標達成指標 | 単位 | 基準値 (H27) | 現状値 (R6) | 目標値 (R8) | 達成 状況 | 評価コメント |
|------------------|--------------------------|-------------------------------|--------------|-------------|-------------|----------|--|
| 7-1.自然環境の保全 | 自然観察会・体験会への参加者数 | 人 | 100 | 218 | 300 | C | 自然観察会・体験会への参加者数は目標値を下回った。周知方法が紙ベースのため広く行き渡らなかったと思われる。R7年度からは、教育委員会と連携しタブレット端末を活用し、児童・生徒に周知したところ参加者数が増加傾向である。また、児童クラブや保育園に出向き、自然観察会・体験会への周知を図っている。 |
| | 森づくり関係団体数 | 団体 | 7 | 7 | 13 | D | 森づくり関係団体について、各団体の活動内容をすべて把握できておらず、新たな団体の設立には至っていない。 |
| | 荒廃森林整備面積 | ha | 0 | 810 | 1,700 | D | 森林所有者が不明であったり、また事業に関し森林所有者の同意がとれない場合が多く、整備面積は目標値の半分程度となっている。 |
| 7-2.快適な生活環境づくり | ボランティア清掃参加者数 | 人 | 6,000 | 17,508 | 7,000 | A | 新型コロナウイルス感染症の収束以降、目標値を大きく上回り増加傾向である。市民、各種団体等と連携・協働が実を結び一定の成果を上げている。 |
| | 合併浄化槽普及率 | % | 31.2 | 37.1 | 34.8 | A | 浄化槽清掃業者を通じてのチラシ配布や市報への掲載等の合併浄化槽についての周知を行っている。公共下水道整備済区域外においては、浄化槽の設置を促進するためにも、事業を継続していく必要がある。 |
| | 水質検査地点における環境基準達成率(BOD検査) | % | 85.5 | 80.76 | 100.0 | B | 水質検査地の基準達成率は目標を下回っている。天候等の外部要因が影響している。 |
| 7-3.環境にやさしいまちづくり | リサイクル率 | % | 24.2 | 21.6 | 28.6 | C | 人口減少により、ゴミ排出量は減っているが、リサイクル量はあまり変化していない。新たなごみ処理施設を整備する計画であり、新たなごみ処理施設を整備することで、プラスチック回収率も向上しリサイクル率も向上する見込である。 |
| | 1人あたりの一般廃棄物の排出量 | g/ 人・日 | 977 | 912 | 889 | B | 令和2年度以降、減少傾向であり、目標値は達成見込みである。 |
| | 温室効果ガスの排出量 | 千t- CO ₂ / 年 | 1,348.82 | 879.00 | 998.13 | A | 飯塚市のエネルギー起源CO ₂ 排出量は、2013年度比で25.1%削減されており、減少傾向にある。しかし、近年は減少が鈍化し、横ばいの状況が続いている。目標を達成するためには、市民一人ひとりの省エネ行動の促進や再生可能エネルギー設備の導入、省エネ機器の普及をさらに進める必要がある。家庭や業務部門の対策は一定程度進んでいるが、産業・運輸部門における対策は十分に進んでおらず、部門ごとの実情を踏まえた追加的な施策が求められる。 |

2. 市民意識調査の結果概要

(1) 調査の概要

① 調査の目的

市政運営の総合的な指針である新たな総合計画を策定するに当たり、市民が日常生活の中でどのようなことを感じられているか、今後どのようなまちにしたいか、ご意見・ご要望を伺い、今後の市政運営の参考とするため

② 調査時期

令和7年7月29日～8月21日

③ 調査対象

市内に居住する18歳以上の男女から無作為抽出した6,000人を対象に実施
有効回収数 2,506人(41.8%)

④ 調査方法

郵送配布、回答は郵送とオンラインの2種

⑤ 主な調査項目内容

I. 回答者の属性

(性別、年齢、職業、通勤・通学先、居住地区、家族構成、通算居住年数)

II. 住みやすさや愛着度

(住みやすさ、住みやすい(にくい)と思う理由、愛着度、居留意向)

III. 飯塚市のまちづくりについて

(飯塚市の取組に対する満足度・重要度)

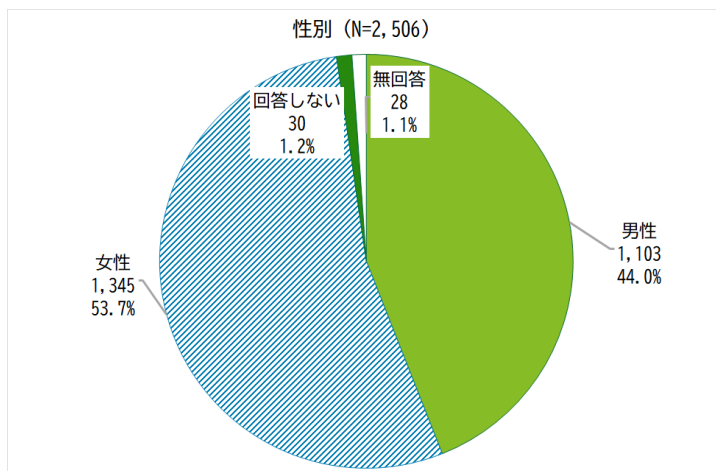
IV. 飯塚市での暮らしについて

(暮らしの満足度、幸福感(Well-Being))

(2)回答者の属性

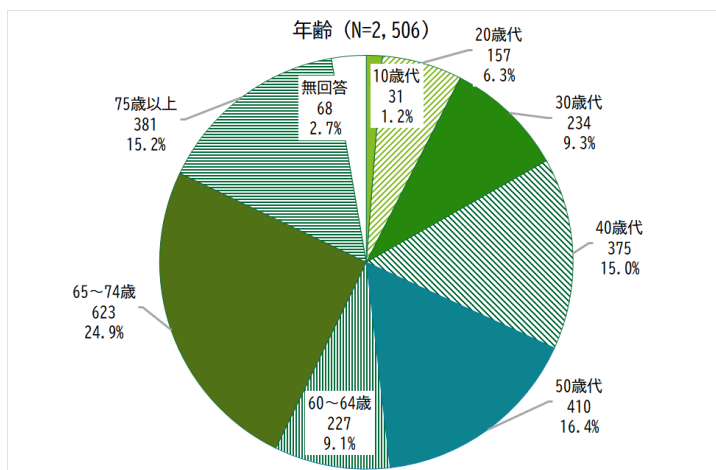
①性別

回答者の性別をみると、「男性」が44.0%、「女性」が53.7%、「回答しない」が1.2%となっている。



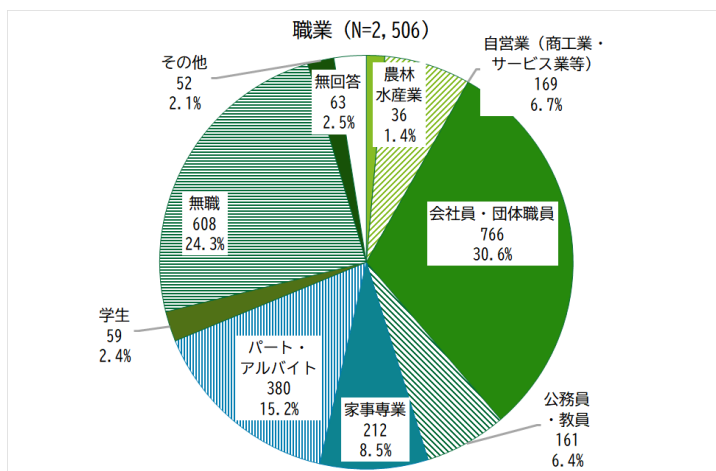
②年齢

回答者の年齢をみると、年齢層が上がるほど割合が高くなる傾向にあり、『60歳以上』(49.2%)が約5割を占めている。



③職業

回答者の職業をみると、「会社員・団体職員」(30.6%)の割合が最も高く、次いで「無職」(24.3%)、「パート・アルバイト」(15.2%)などの順となっている。



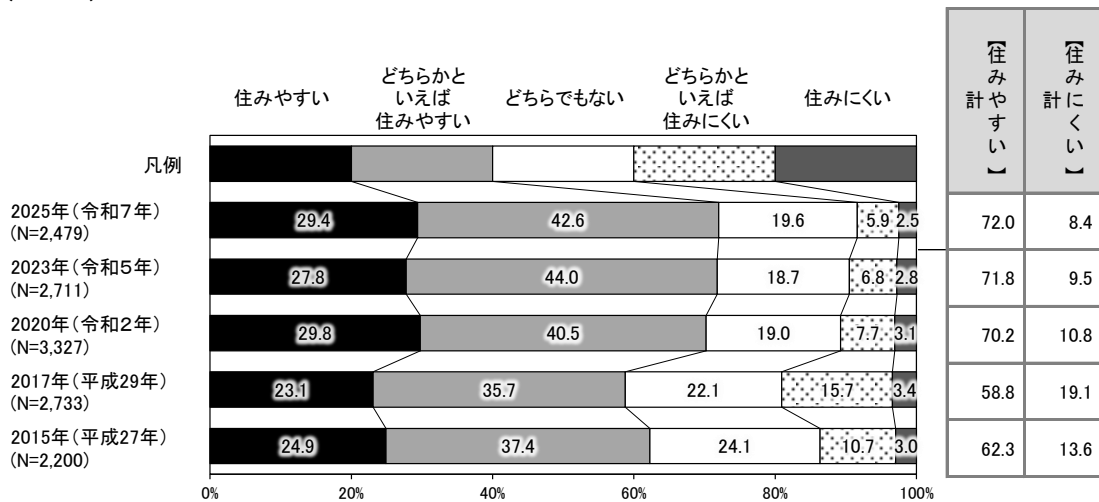
(3) 調査結果

① 飯塚市の住みやすさと愛着度

飯塚市の住みやすさをみると、「住みやすい」が 29.4%、「どちらかといえば住みやすい」が 42.6% になっており、これらを合わせた『住みやすい』(72.0%)の割合は7割を占めている。一方、「住みにくい」(2.5%)、「どちらかといえば住みにくい」(5.9%)を合わせた『住みにくい』(8.4%)の割合は1割弱となっている。

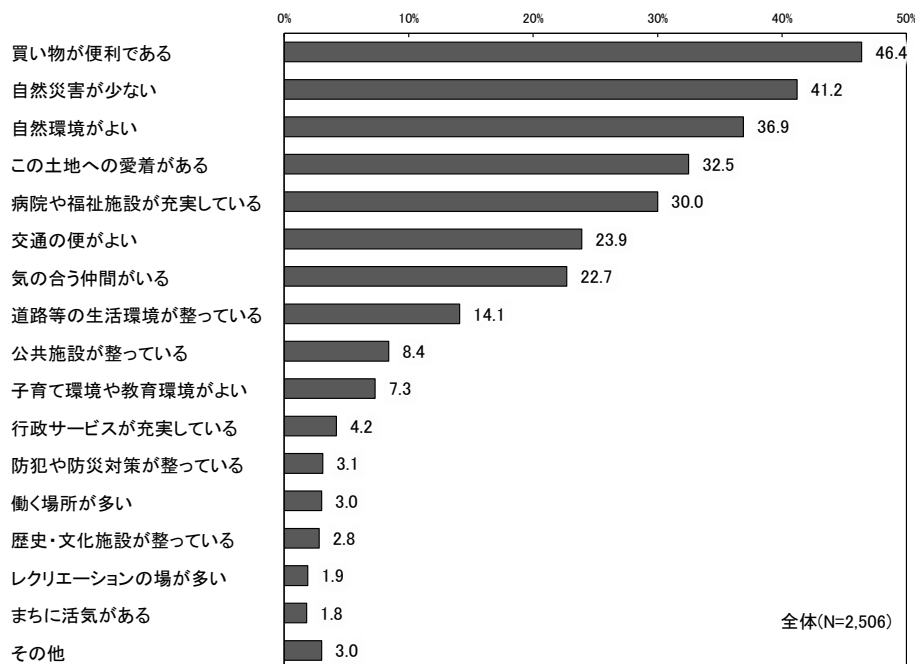
飯塚市の住みやすさを時系列にみると、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』と答えた人の割合が 2025(令和7)年度調査では7割程度を占めており、2023(令和5)年度・2020(令和2)年度と同程度となっている。

一方、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合わせた『住みにくい』と答えた人の割合は 2025(令和7)年度調査では 8.4%で、これまでの調査の中で最も低くなっている。

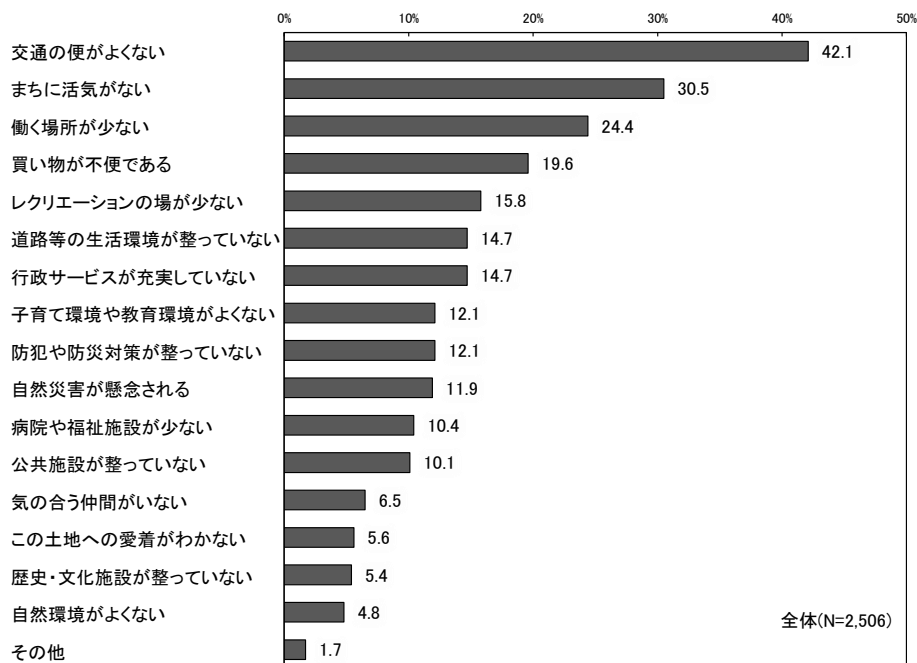


※時系列での比較を可能にするため、無回答を除いたサンプル数で割合を算出

住みやすいと思う理由をみると、「買い物が便利である」(46.4%)の割合が最も高く、次いで「自然災害が少ない」(41.2%)、「自然環境がよい」(36.9%)、「この土地への愛着がある」(32.5%)などの順となっている。

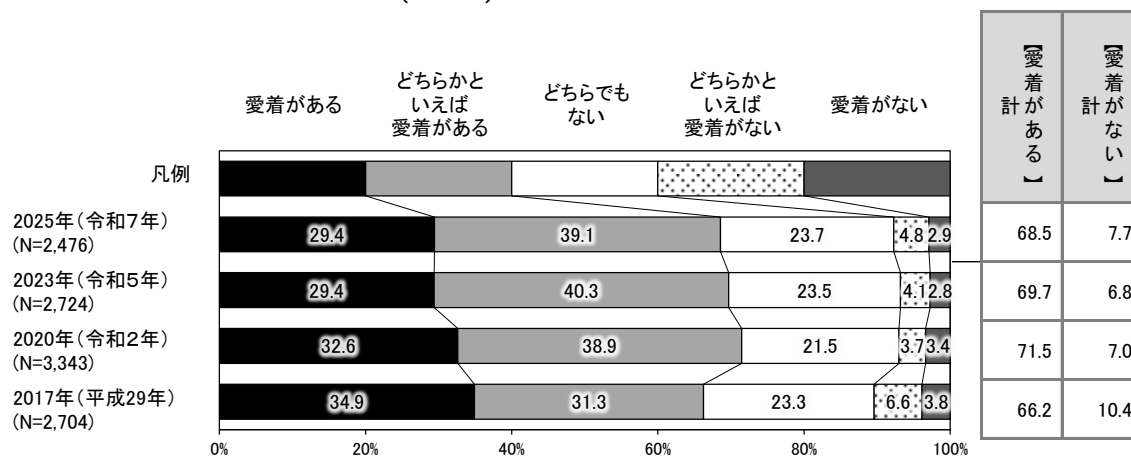


住みにくいと思う理由をみると、「交通の便がよくない」(42.1%)の割合が最も高く、次いで「まちに活気がない」(30.5%)、「働く場所が少ない」(24.4%)、「買い物が不便である」(19.6%)などの順となっている。



飯塚市に対する愛着をみると、「愛着がある」が29.4%、「どちらかといえば愛着がある」が39.1%となっており、これらを合わせた『愛着がある』(68.5%)と答えた人が7割弱を占めている。一方、「愛着がない」(2.9%)、「どちらかといえば愛着がない」(4.8%)を合わせた『愛着がない』(7.7%)と答えた人は1割弱にとどまっている。

飯塚市に対する愛着を経年で比較すると、『愛着がある』と答えた人の割合は2023(令和5)年度調査に比べてやや低くなったものの、2025(令和7)年度調査でも依然として7割弱を占めている。一方、『愛着がない』と答えた人の割合は2020(令和2)年度調査から横ばいで1割弱となっている。

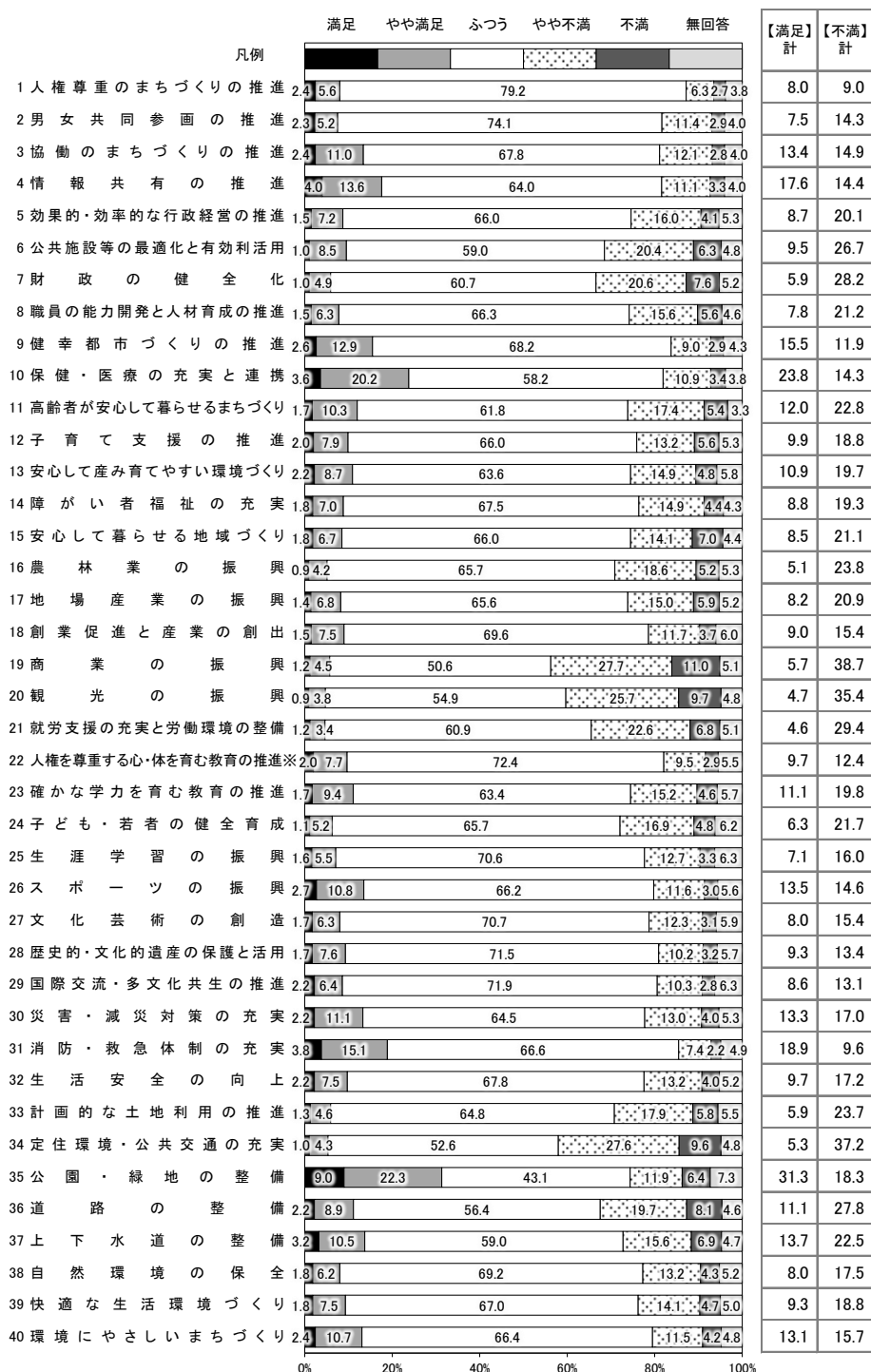


※時系列での比較を可能にするため、無回答を除いたサンプル数で割合を算出

②飯塚市の取組への満足度と重要度

飯塚市が行っている様々な行政サービスの取組について、どのくらい満足しているかを5段階評価で尋ねた。各施策に「満足」あるいは「やや満足」と回答した『満足度』の割合をみると、「【35】公園・緑地の整備」(31.3%)が最も高く、次いで「【10】保健・医療の充実と連携」(23.8%)、「【31】消防・救急体制の充実」(18.9%)、「【4】情報共有の推進」(17.6%)、「【9】健幸都市づくりの推進」(15.5%)などの順となっている。

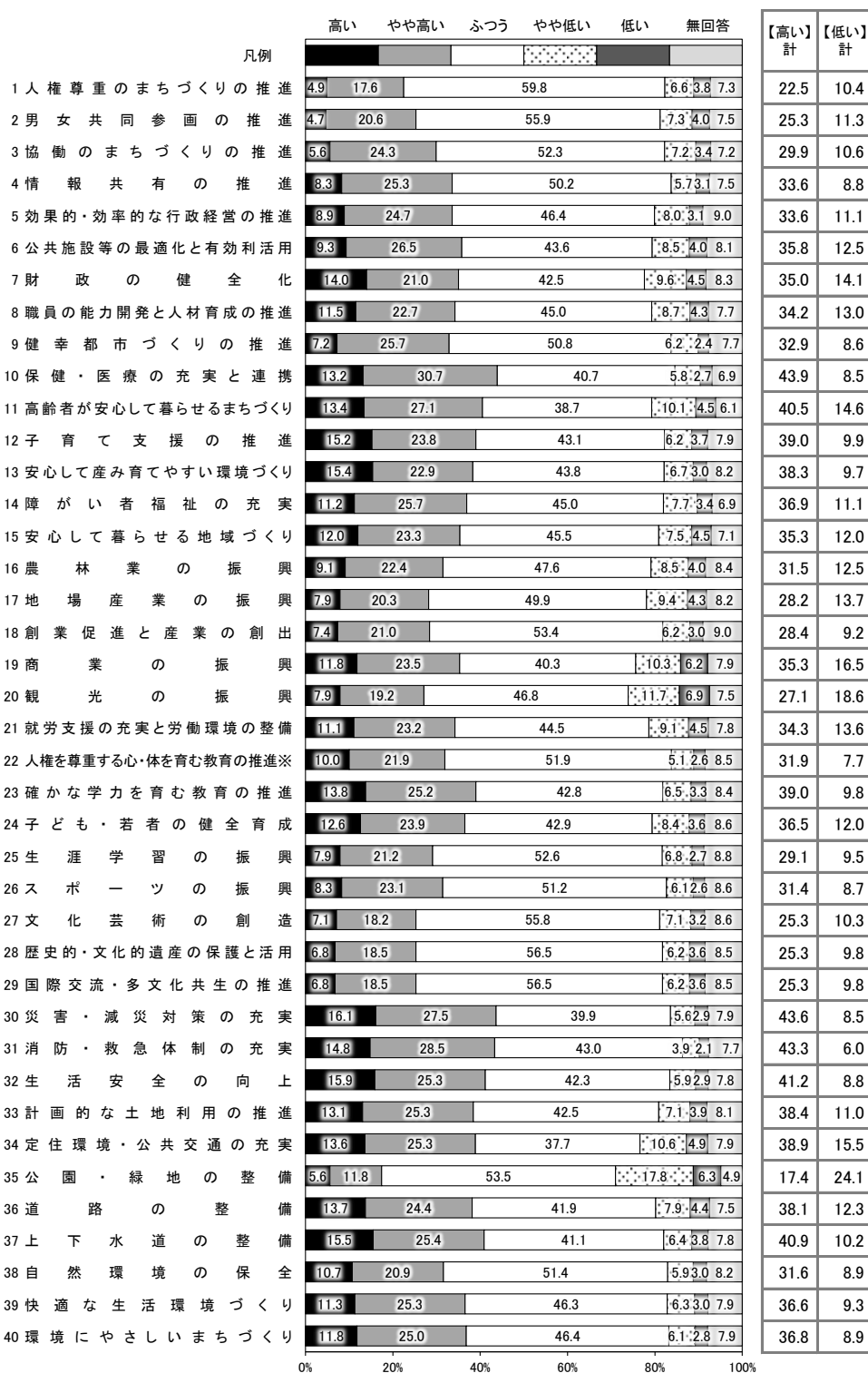
一方、「不満」あるいは「やや不満」と回答した『不満度』の割合をみると、「【19】商業の振興」(38.7%)が最も高く、次いで「【34】定住環境・公共交通の充実」(37.2%)、「【20】観光の振興」(35.4%)、「【21】就労支援の充実と労働環境の整備」(29.4%)、「【7】財政の健全化」(28.2%)などの順となっている。



※22は「人権を尊重する豊かな心・健やかな体を育む教育の推進」を簡略化して記入している。

飯塚市が行うべき各施策が、どのくらい重要かを5段階評価で尋ねてみた。各施策に対して「高い」あるいは「やや高い」と回答した『高い重要度』の割合をみると、「【10】保健・医療の充実と連携」（43.9%）が最も高く、次いで「【30】災害・減災対策の充実」（43.6%）、「【31】消防・救急体制の充実」（43.3%）、「【32】生活安全の向上」（41.2%）、「【37】上下水道の整備」（40.9%）などの順となっている。

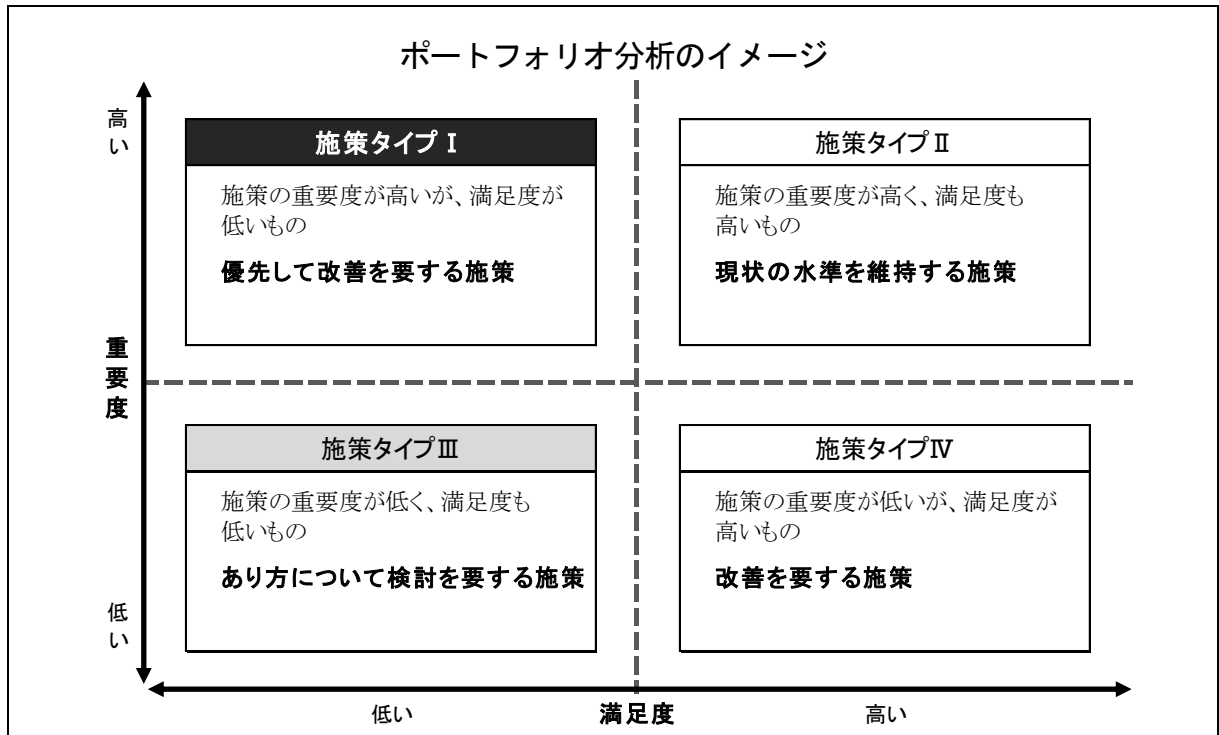
一方、「低い」あるいは「やや低い」と回答した『低い重要度』の割合をみると、「【35】公園・緑地の整備」（24.1%）が最も高く、次いで「【20】観光の振興」（18.6%）、「【19】商業の振興」（16.5%）、「【34】定住環境・公共交通の充実」（15.5%）、「【11】高齢者が安心して暮らせるまちづくり」（14.6%）などの順となっている。



※22は「人権を尊重する豊かな心・健やかな体を育む教育の推進」を簡略化して記入している。

施策項目の優先性を検討するために、各項目の「満足度」の平均値と「重要度」の平均値から、ポートフォリオ分析を行った。

ポートフォリオ分析とは、「満足度」を横軸、「重要度」を縦軸にとり、各項目の分布状況を示した散布図を4つの領域に分類したものである。2本の補助軸は「満足度」の全項目(40項目)の平均値と、「重要度」の全項目(40項目)の平均値を示している。



「満足度」と「重要度」の平均値は以下のような配点をし、無回答を除外して平均値を算出している。平均値が高い方が重要度や満足度が高いということになる。

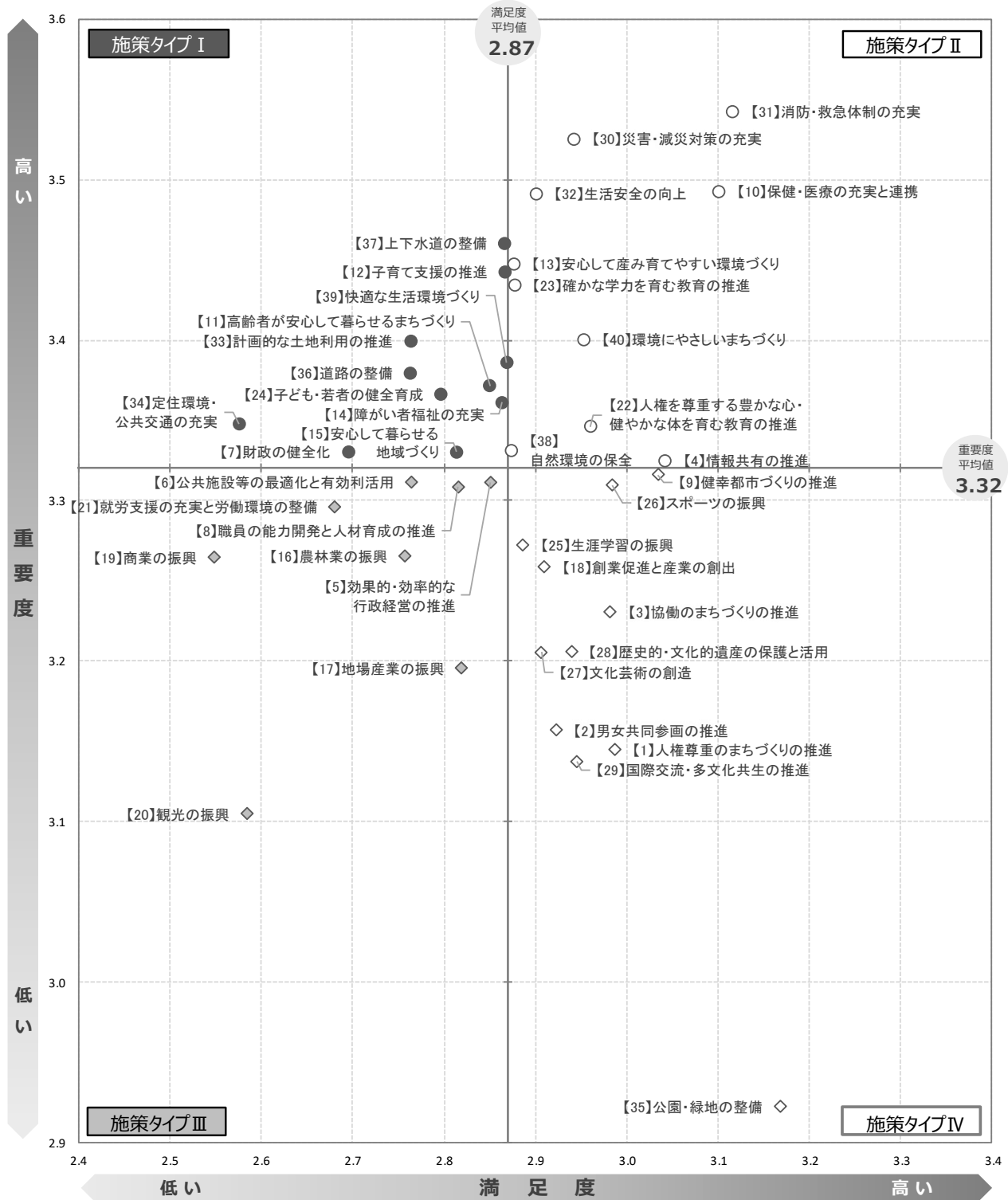
【「満足度」、「重要度」得点化にあたっての配点】

| 満足度 | | 重要度 | |
|------|----|------|----|
| 満足 | 5点 | 高い | 5点 |
| やや満足 | 4点 | やや高い | 4点 |
| ふつう | 3点 | ふつう | 3点 |
| やや不満 | 2点 | やや低い | 2点 |
| 不満 | 1点 | 低い | 1点 |

【施策タイプⅠ】(施策の重要度が高いが、満足度が低いもの)には、満足度が2番目に低い「【34】定住環境・公共交通の充実」など11項目が該当している。

また、【施策タイプⅢ】(施策の重要度が低く、満足度も低いもの)には、満足度が最も低い「【19】商業の振興」など8項目が入っている。

【ポートフォリオ分析 (全体)】

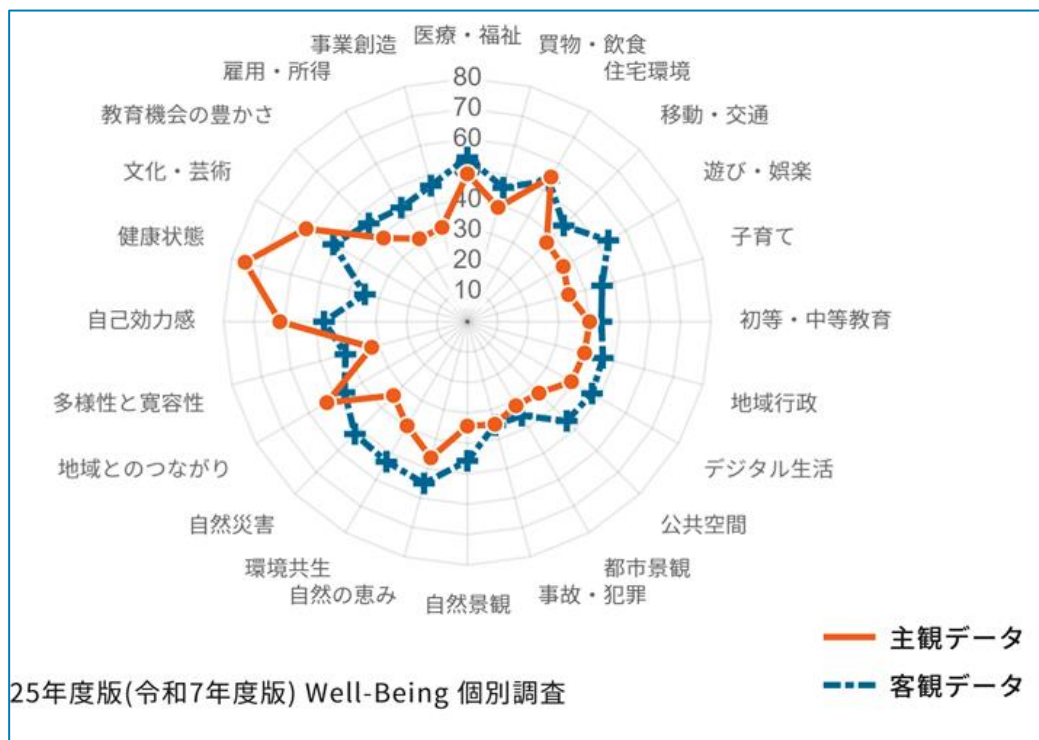


③暮らしの満足度と幸福感

暮らしている地域に対する評価について、全国平均を50とした場合の数値を指標別にみると、住宅環境、医療・福祉、文化・芸術で主観・客観とも高くなっている。

一方、都市景観、事故・犯罪で主観・客観とも低くなっている。

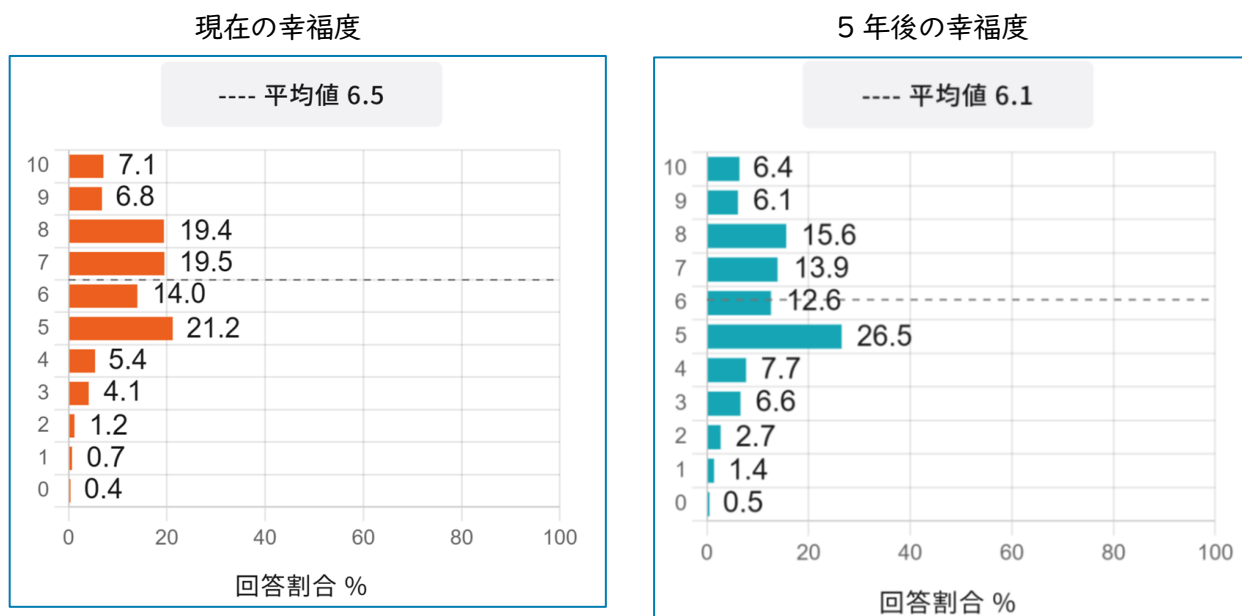
また、健康状態に関し、主観が客観を大きく上回っているが、多くの項目で主観が客観を下回っている。すなわち、客観的な統計データが高いにもかかわらず、主観的な住民認識が相対的に低い項目が多くなっている。



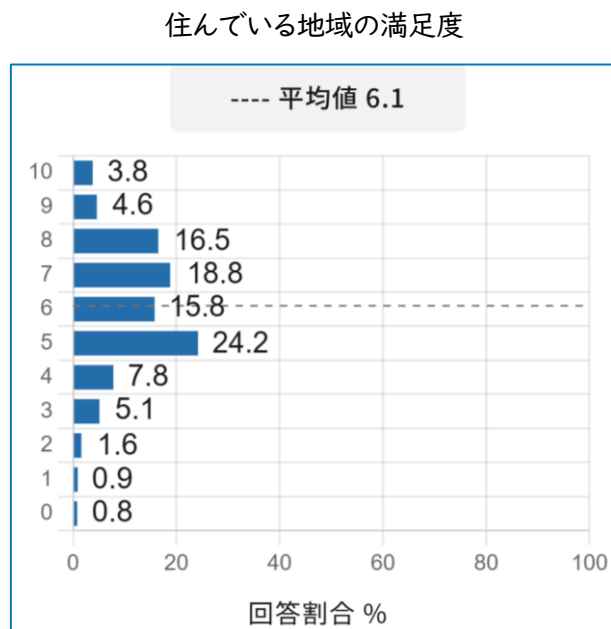
| 因子群 | カテゴリ・評価指標 | 主観 | 客観 |
|----------|-----------|------|------|
| 生活環境 | 医療・福祉 | 48.6 | 54.0 |
| 生活環境 | 買物・飲食 | 38.9 | 45.6 |
| 生活環境 | 住宅環境 | 54.9 | 53.6 |
| 生活環境 | 移動・交通 | 36.8 | 44.7 |
| 生活環境 | 遊び・娯楽 | 36.3 | 53.4 |
| 生活環境 | 子育て | 34.4 | 45.7 |
| 生活環境 | 初等・中等教育 | 40.1 | 44.0 |
| 生活環境 | 地域行政 | 39.8 | 46.0 |
| 生活環境 | デジタル生活 | 39.4 | 47.2 |
| 生活環境 | 公共空間 | 33.2 | 46.1 |
| 生活環境 | 都市景観 | 31.9 | 35.7 |
| 生活環境 | 事故・犯罪 | 34.9 | 35.2 |
| 生活環境 | 自然景観 | 34.3 | 45.7 |
| 生活環境 | 自然の恵み | 46.3 | 55.0 |
| 生活環境 | 環境共生 | 39.5 | 53.1 |
| 生活環境 | 自然災害 | 34.3 | 52.2 |
| 地域の間関係 | 地域とのつながり | 53.2 | 46.5 |
| 地域の間関係 | 多様性と寛容性 | 32.5 | 41.4 |
| 自分らしい生き方 | 自己効力感 | 61.5 | 47.0 |
| 自分らしい生き方 | 健康状態 | 75.5 | 34.8 |
| 自分らしい生き方 | 文化・芸術 | 61.1 | 50.8 |
| 自分らしい生き方 | 教育機会の豊かさ | 38.9 | 45.7 |
| 自分らしい生き方 | 雇用・所得 | 31.5 | 43.3 |
| 自分らしい生き方 | 事業創造 | 32.1 | 46.3 |

現在の幸福度について、とても幸せを 10 点、とても不幸を 0 点とした場合の点数をきいたところ、平均値は 6.5 点で、5 点から 8 点までの間で 74.1% を占めている。

5 年後の幸福度について、平均値は 6.1 点で、5 点から 8 点までの間で 68.6% を占めており、現在の幸福度よりも少し低く回答している。



住んでいる地域の満足度について、とても満足を 10 点、とても不満足を 0 点とした場合の点数をきいたところ、平均値は 6.1 点で、5 点から 8 点までの間で 75.3% を占めている。



3.まちづくり意向調査の結果概要

(1)まちづくり意向調査の実施概要

①調査の目的

市政運営の総合的な指針である次期総合計画を策定するにあたり、本市の振興・発展に寄与されている企業・団体の意見や要望を伺い、今後の市政運営の参考にするため

②調査時期

令和7年9月

③調査対象

付属機関への委員就任をお願いしている企業・団体
市役所各部署において業務に関係のある企業・団体

④調査方法

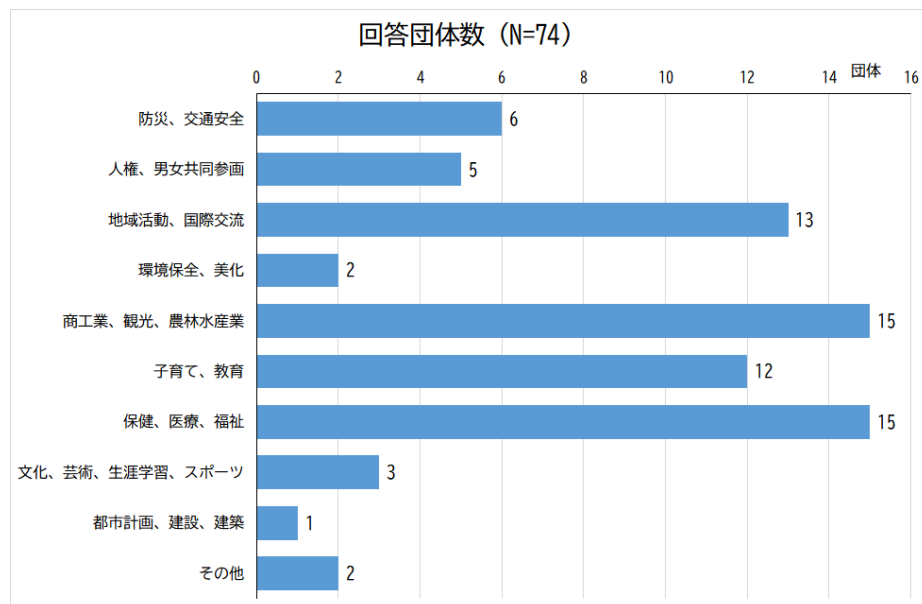
郵送、メール等で配布し、紙又はWEBで回答

⑤主な調査項目

- ・ 団体の主な活動分野
- ・ 活動の中で感じている問題点や課題
- ・ 上記課題の解決策
- ・ 上記解決策に対して行政に支援してもらいたいこと
- ・ 飯塚市の現在及び今後優先すべき課題
- ・ 飯塚市と協働したいこと
- ・ 今後のまちづくりに対する意見、要望、提案

⑥回答団体

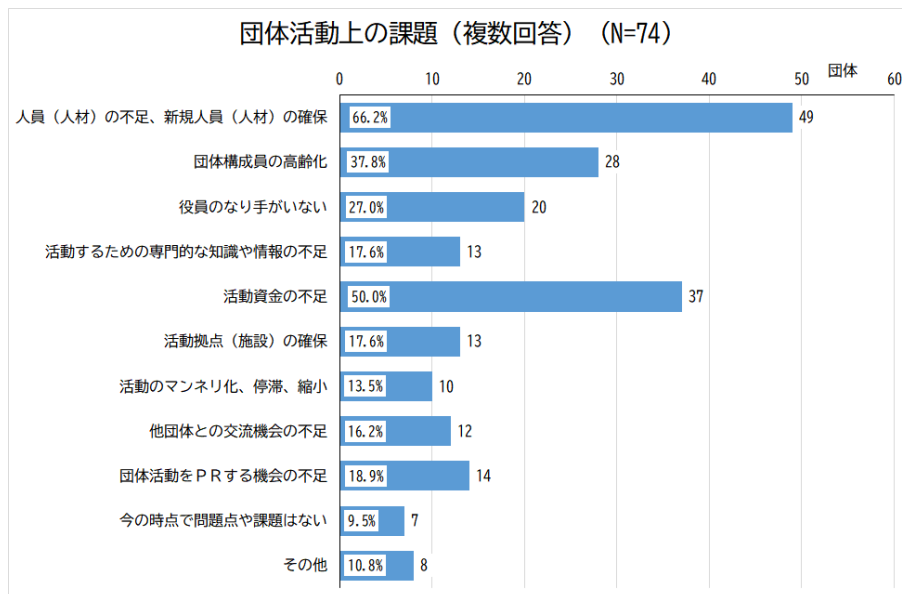
回答のあった74団体において、「商工業、観光、農林水産業」「保健、医療、福祉」が最も多く、「地域活動、国際交流」「子育て、教育」が続いており、この4分野で55団体と全体の4分の3を占めている。



(2)調査結果

①団体活動上の課題

団体活動上の課題について、「人員（人材）の不足、新規人員（人材）の確保」が最も多く、49 団体（66.2%）となっている。次いで「活動資金の不足」が 37 件（50%）となっている。



②団体活動上の課題への対応策

団体活動上の課題への対応策及び行政に支援してもらいたいことについて、ヒト、カネ、ネットワークの3つにわけて、次のとおり整理しました。

| | 課題への対応策 | 行政に支援してもらいたいこと |
|----------------------|---|--|
| ヒト（人材不足、高齢化、なり手不足など） | <p>広報活動（ホームページ、SNS、チラシ、オリエンテーション、イベント等）による募集・PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページや SNS で広報、入会説明会開催 ・ チラシ・ポスター・広報紙配布、PRパンフレット配布 ・ イベントや行事を通じてPR・募集 <p>採用活動・離職防止・柔軟な働き方の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な採用活動・離職防止策 ・ 柔軟な働き方への対応 ・ 新規事業の開拓と補助金リサーチ ・ ハローワークや求人・紹介業者の利用 ・ 管理職が人材確保のため奔走 ・ 若い世代への声かけ、育成事業 <p>高齢化対策・若年層の参加促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人材への勧誘 ・ 高齢者の後進への活動参加促し ・ 会員拡大、若い役員の選任 ・ 役員のなり手不足への対応（複数兼務等） ・ 若い年代への育成事業 ・ 事務局の若返り ・ 若い世代への呼びかけ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人員の確保、採用活動の協力 ・ 医療・介護・看護師の人材確保（市独自の補助金や就学資金貸付制度など） ・ ハローワーク等を活用した医療・介護人材確保対策 ・ 若手農業者や新規就農者の人材育成研修、専門家の派遣 ・ 役員のなり手不足への対応 ・ 職員・OBの参加要請 ・ 交流センター等への職員配置 ・ 学校の生徒・人材獲得支援 ・ 高齢化による活動構成員の不足 ・ 高齢者が主体的に活動できるよう支援してほしい |

| | 課題への対応策 | 行政に支援してもらいたいこと |
|-----------------------|---|---|
| カネ(活動資金不足、拠点確保など) | <p>会費・自主財源の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会費の検討、収益改善 ・ 自己資金の拠出 ・ 会費・手数料の見直し <p>外部資金・助成金・補助金の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助成金申請 ・ 県・市の補助金・受託料の活用 ・ 資金積立てや協賛金募集 <p>行政への支援・協力依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資金調達イベント・バザー等の実施 ・ バザーや資源ごみ回収による資金調達 <p>経費削減・効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経費削減、職員数や委託内容等の見直し ・ 業務効率化、無駄の排除 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金の増額、助成金の増額 ・ 活動資金の助成、事業費の確保 ・ 運営費や消耗品代に対する支援 ・ ボランティア謝礼への支援 ・ 施設使用料の減免・無償提供 ・ 公的資金投入の強い要望(国・県への働きかけ) ・ 懇親会費用への補助 ・ イベント費用への補助 ・ 財政的な支援の継続 |
| ネットワーク(交流機会、PR機会不足など) | <p>広報活動(HP、SNS、パンフレット、チラシ等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページや SNS 活用 ・ PR パンフレット、チラシ配布 ・ 講演会、勉強会、行事案内 <p>イベント・地域活動での PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域イベント、自治体の行事への参加 ・ 飯塚市や地域の PR <p>美化活動や地域貢献活動他団体との連携・交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会やまちづくり協議会、行政、社会福祉協議会等との連携 ・ 他団体との交流機会の創出(研修会、情報交換) ・ 行政を通じた交流 ・ 地域イベントへの積極参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 産学官連携の推進、他団体との交流機会の提供 ・ 全ての関係事業所が参加できる協議会の立ち上げ ・ 小・中学校や市教委との連携 ・ 商工・福祉・教育など異分野との交流の場づくり ・ 既存会員からの声掛け、ネットワーク拡充 ・ まちづくりの協働体制、行政と住民・団体との連携強化 ・ 他業種との意見交換の場 ・ イベント、講習会、交流の場の提供(講習会、講演会の地元開催等) ・ 市報や SNS 等での広報・情報発信、企業 PR 支援 |

③まちづくりの課題と対策

飯塚市のまちづくりにおける課題と対策等について、政策分野別に、次のとおり整理しました。

1. 人権・男女共同参画

| | 市の課題と対策 | 行政と協働したいこと | 市政への意見・要望・提案 |
|--------------|---|---|--|
| 自治会・地域活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> 自治会加入率の低下への対策 地域の交流・一体感の醸成 市職員も一市民として地域協力を 顔の見える関係性、防災・防犯・見守りの推進 | <ul style="list-style-type: none"> 情報提供と橋渡しの役割強化 市職員の地域参画(自治会等への積極的参加) | <ul style="list-style-type: none"> 自治会の加入率増加、若い世代の加入促進、自治会の役割・メリットの周知、自治会活動への支援強化 若い世代の声の反映、気軽に意見を言える場の設置、住民参画の推進 自治会活動の負担軽減、自治会費の徴収方法(市税と一体化等)、役員のなり手不足問題 自治会離れへの危機感、自治会が果たす行政的機能への認識向上 |
| 市民参画・対話の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の意見を聞く機会の創出 市民との対話や伴走支援 タウンミーティングや地域住民との連携強化 子育て世代や働き盛りの世代のまちづくり参画促進 | <ul style="list-style-type: none"> 市民・団体の参画機会の拡充(不特定多数が集える機会、地域の人参加できる仕組み、まちづくり協議会の認知度向上、行政と市民の五分五分の協力、タウンミーティング等) | <ul style="list-style-type: none"> 「協働のまちづくり推進条例」のさらなる周知・実践 各分野・少数意見の十分な検討 行政主導にならない協働、市民参画の可視化・体験機会の拡充 市民・団体の自由な意見を受け止め、実行につなげる体制づくり 行政との懇談会開催や役員の選出方法の改善、民意反映の仕組み強化 |
| 人権尊重・共生社会の実現 | <ul style="list-style-type: none"> 人権尊重とジェンダー平等の推進 障がいへの理解促進(広報やパンフレット配布) 多文化共生・国際交流の推進 「福祉」「人権」の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 共生社会実現、障がい理解の推進(冊子配布、啓発活動等) 男女共同参画推進事業等との協働、補助金制度の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度の利用促進と権利擁護のための中核機関設置 多文化共生(外国人雇用増に伴う地域交流の推進) まちづくりの原点は「人」・人を大切にするまちづくり 地域団体・企業における男女共同参画の更なる推進、行政からの協力依頼の強化 障がい者団体の連携・共同活動の推進 バリアフリー施策の継続性確保 共生社会の理念、こどもたちへの体験教育の重要性 |

2. 行政経営

| | 市の課題と対策 | 行政と協働したいこと | 市政への意見・要望・提案 |
|-------------|--|--|--|
| 財政健全化・効率的運営 | <ul style="list-style-type: none"> 負債のスリム化、箱物建設の見直し 補助金の見直し、予算の無駄使い削減 収支バランスと税込確保 | <ul style="list-style-type: none"> 補助金・助成制度の見直し(補助金規定の変更要望) 経営改革・黒字化 | <ul style="list-style-type: none"> 行政経営・行財政改革(市議会議員削減・機構見直し・財政のスリム化) 財政破綻回避、税込確保、適正な税金の支出 予算の優先順位見直し、柔軟な財政執行、事業団体への使途制限緩和 |
| 人材確保・職員育成 | <ul style="list-style-type: none"> 行政職員の責任ある関与 職員研修の充実 人材確保・レベルの高い人材育成 | | <ul style="list-style-type: none"> 真摯な行政運営の継続 |
| 連携と協働 | <ul style="list-style-type: none"> 市のビジョンの明確化 各課、地域、大学等との横の連携 広域連携の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 指定管理・法人化の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 市長のリーダーシップへの期待 行政と団体の責任分担・連携推進 市民に分かりやすい行政情報の発信 |

3. 健幸・子育て

| | 市の課題と対策 | 行政と協働したいこと | 市政への意見・要望・提案 |
|-------------|---|--|---|
| 子育て環境の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代の定住化・環境整備 こどもが安心して過ごせる環境(施設整備・人員確保) 保育所・病児保育の整備、こども食堂などの支援 こどもの権利・生活環境の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代支援(家事代行・家庭保育人材派遣、病児保育の不足対応) 乳幼児親子対象事業 高齢者・こども・地域のふれあい、見守り | <ul style="list-style-type: none"> こどもが生き生きと過ごせる環境(自由に遊べる広場、プレイパーク、観劇会等) こども時代の体験活動、地元素材を使った体験学習、共生社会教育 給食無償化、駅周辺の認定こども園設置、こどもの安全な遊び場の整備 優秀な人材確保、教職員の負担軽減 |
| 高齢者・福祉施策の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が安心して暮らせる環境 高齢者の雇用・生きがいづくり 高齢者の移動手段の確保 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の健康づくり・フレイル予防・通いの場の整備 高齢者が安心して住めるまちづくり(医療介護連携、健康寿命延伸、資金援助) | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や買い物弱者への支援(買い物支援カー等) 2040年を見据えた医療・介護・福祉施策の明示、安心して住み続けられるまちづくり |
| 医療・健康寿命の延伸 | <ul style="list-style-type: none"> 健診・疾病予防・健康意識啓発 医療・介護従事者の確保 医療・介護体制の維持強化 | <ul style="list-style-type: none"> 健診・予防事業の推進(健診後支援、生活習慣病予防、企業・学校連携による健康啓発等) 医療・看護人材の確保・育成・定着 | <ul style="list-style-type: none"> 医療機関(市立病院等)の経営支援・交付金増額要望 健康パスポート構想(健診データ等の電子化・共有)、地域包括ケアとの統合、「飯塚モデル」確立 |

4. 地域経済

| | 市の課題と対策 | 行政と協働したいこと | 市政への意見・要望・提案 |
|-------------------------|--|---|---|
| 商工業 振興・ 商店街 振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新産業の創出 ・ 中小企業活性化・仕事の創出 ・ 商店街の再整備・活性化 ・ 観光資源の開発・磨き上げ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 商工業・企業支援（中核企業育成、スタートアップ支援、DX/BX 推進、雇用創出） ・ 地域の活性化・特色ある街づくり ・ 関係団体と連携した商工業発展 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 他自治体との差別化（教育・劇場・スイーツ・新技術等への投資）、強いプレイヤーの呼び込み |
| 農林業 振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林業振興・ブランド化 ・ 農業者の高齢化・担い手不足対策 ・ 農地・耕作放棄地の保全と活用 ・ 環境保全型農業の推進 ・ 農林業の振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業振興（スマート農業、地産地消、農産物ブランド化、農福連携など） ・ 竹林改良・植樹、鹿対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業振興・食農教育・市民農園の整備 ・ デジタル技術活用・経営支援 ・ ブランド育成、新規就農支援 ・ 放棄農地対策・環境美化への配慮 |
| 雇用・企業 誘致 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大企業や公的機関の誘致 ・ 人口減少・少子高齢化への対策 ・ 移住・定住の促進 ・ 若年層流出防止 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致、雇用創出、人口増加施策の推進 ・ 地場企業の人材確保・地元定着の魅力づくり ・ 大学生・高校生対象の地元就職啓発、社員交流 ・ 人材育成研修の実施 |

5. 教育・文化

| | 市の課題と対策 | 行政と協働したいこと | 市政への意見・要望・提案 |
|-----------|---|---|--|
| 教育の 充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育施設・特別教室（エアコン等）の整備 ・ 教育と文化の推進 ・ 変化に対応できる子どもを育てる教育 ・ 学園都市構想の継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育現場の支援（教職員の働き方改革、人材確保、キャリア教育、学びの支援） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・高校と市の連携強化、人材育成 ・ 学校跡地の活用（温泉・スパリゾート等） |
| 文化振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化や観光資源の発掘・活用 ・ 文化施設・イベントの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化・芸術活動の充実（文化芸術人材の学校派遣、発表の場の拡充） ・ 伝統文化の継承 ・ 日本語教室の推進・強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史資料館の再編・美術館設置 ・ 祇園祭の復活、神社と商店街のコラボ |

6. 都市基盤・生活基盤

| | 市の課題と対策 | 行政と協働したいこと | 市政への意見・要望・提案 |
|------------|--|--|---|
| 交通・移動手段の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の充実 高齢者・障がい者も利用しやすい交通網の整備 バスターミナル・駅周辺の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 交通政策（高齢者の移動支援含む） | <ul style="list-style-type: none"> バス路線廃止等による交通弱体化への対策（MaaS・ライドシェア等の活用） 駅周辺開発・駐車場整備・バリアフリー化 鉄道複線化（福岡市ベッドタウン化のため） |
| 空き家・住環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 空き家対策 住みよい地域・住環境の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 市営住宅等の老朽化対策・高齢者コミュニティ整備 イベント・賑わい創出（駅前広場活用等） | |
| インフラ・施設整備 | <ul style="list-style-type: none"> インフラの老朽化対策、跡地活用 公園・公共施設の整備・清掃 | <ul style="list-style-type: none"> 生活インフラ（河川管理・水質改善） 旧施設の利活用（跡地活用、史跡整備等） | <ul style="list-style-type: none"> 立岩踏切周辺道路の整備・浸水対策 道路沿いの草刈りを自治会の有償事業化 |
| 防災・防犯 | <ul style="list-style-type: none"> 自然災害への対策、防災・減災 | <ul style="list-style-type: none"> 防災・ネットワーク構築（関係機関連携、総合防災訓練等） | <ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラ設置補助金制度の設立・拡充 街頭防犯カメラ設置の推進 外灯・街灯の増設 |

7. 自然環境

| | 市の課題と対策 | 行政と協働したいこと | 市政への意見・要望・提案 |
|-------------|--|--|---|
| 自然環境の保全 | <ul style="list-style-type: none"> 鳥獣害防止 環境保全意識の啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 地域環境保全 ゴミ拾い活動の発展 河川の水質改善 | <ul style="list-style-type: none"> 自然豊かな飯塚市を守るまちづくり、環境整備の見直し 農地・田畑の荒廃防止と環境美化 市民参加による環境保全 |
| 公園・緑地の活用・整備 | <ul style="list-style-type: none"> 八木山公園などの整備・景観向上 | <ul style="list-style-type: none"> 花を活用したまちづくり（「一人一花運動」参画等） | |

4. 市民ワークショップの結果概要

(1)ワークショップの実施概要

①中学生ワークショップ

目的：飯塚市のまちづくりの方針として策定する総合計画に次代を担う若年層の意見を反映させることを目的として実施します。

期日：2025年11月29日(土) 10:00~12:00

場所：ゆめタウン飯塚 2階 ゆめホール

参加者：飯塚市内中学校(県立含む)から各校2名(計22名、1チーム4~5名で4チーム)

②市民ワークショップ

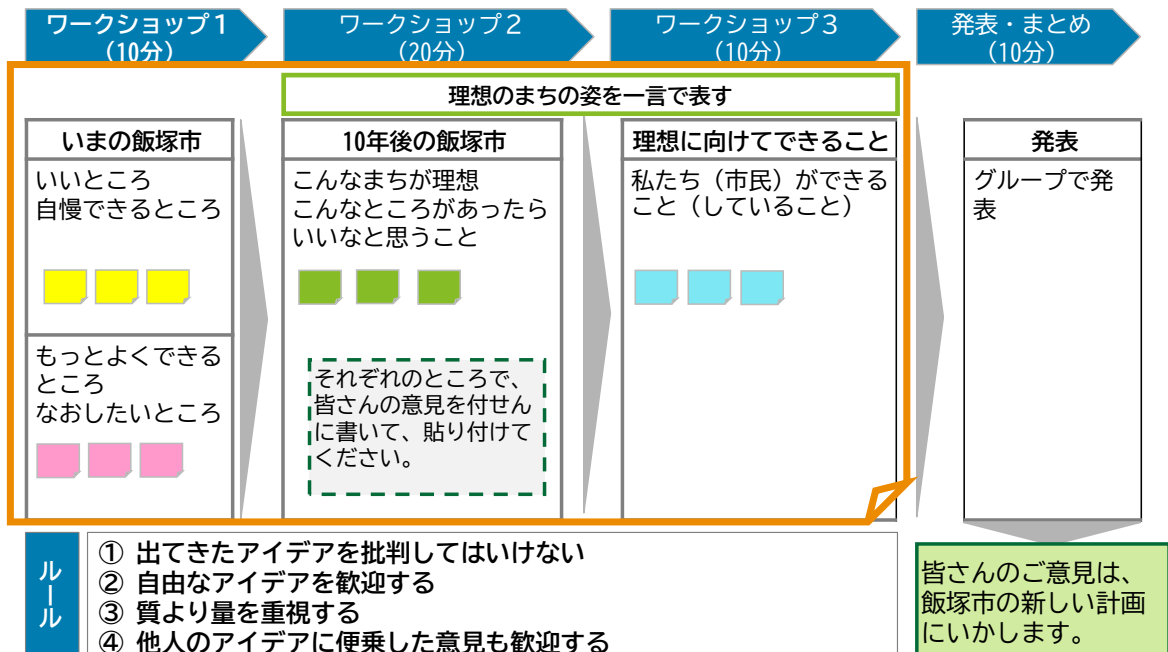
目的：飯塚市のまちづくりの方針として策定する総合計画に市民の意見を反映させることを目的として実施します。

期日、場所、参加者：

| 期日(2026年) | 場所 | 参加者 |
|----------------------|------------------|-----|
| 1月22日(木) 19:00~20:30 | 穂波交流センター 研修室1~3 | 4名 |
| 1月24日(土) 10:00~11:30 | 飯塚市役所 2階多目的ホール | 11名 |
| 1月26日(月) 19:00~20:30 | 穎田交流センター 第2・3研修室 | 12名 |
| 1月28日(水) 19:00~20:30 | 庄内交流センター 第3研修室 | 9名 |
| 1月29日(木) 19:00~20:30 | 筑穂交流センター 中研修室 | 7名 |

内容：

中学生、市民ともに、下記のような流れでワークショップを実施しました。



(2)ワークショップの実施状況

①中学生ワークショップ

<作業風景>



<作成した模造紙(抜粋)>



<発表風景>

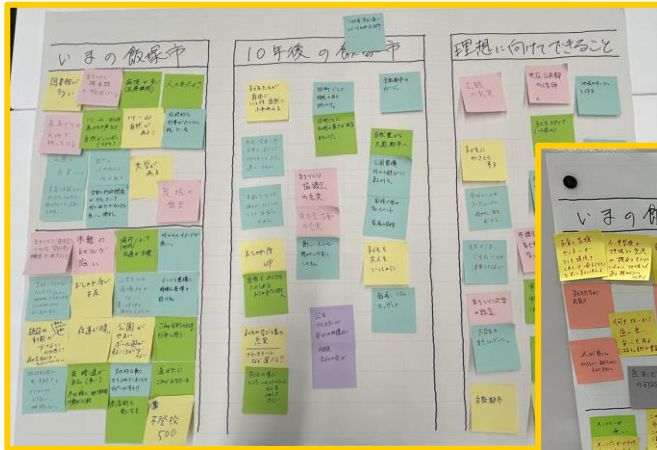


②市民ワークショップ

<作業風景>



<作成した模造紙(抜粋)>



<発表風景>



(3)中学生ワークショップの結果

| 今の飯塚市 | 10年後の理想の姿 | 理想に向けてできること |
|---|--|--|
| <p><u>いいところ、自慢できること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が豊か ・ 食べ物がおいしい、飲食店が多い ・ アクセスがよい ・ 行事やイベントが多い ・ 商業施設などが充実している ・ やさしい人が多い、人が親切 | <p><u>理想の姿(一言で)</u></p> <p>A:みんな住みやすく地域・国際交流がある市</p> <p>B:あつまれ!ビューティー飯塚</p> <p>C:イベントが多くて人の交流がさかんなまち</p> <p>D:市内だけでなく市外から多くの人が集まる、にぎやかなまち</p> <p><u>個別の意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内だけで楽しめる ・ 飯塚に残りたいと思える場所に ・ こどもが気軽に安心して遊べる ・ 外からたくさん人が集まってくる、様々な人との交流がある ・ 観光地がたくさんある ・ 全国から有名なまち ・ 道がきれい・安全、交通機関がたくさんある ・ たくさんの人が参加できるイベントが多い ・ 差別がない社会にやさしいまち ・ 人同士のつながりが深いまち ・ 外灯が増えて夜も明るいまち | <p><u>今(中学生として)できること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯塚について知る、客観的にみる、理解を深める ・ イベントや行事に積極的に参加する ・ ボランティア活動に参加する ・ ごみが捨てられていたら拾う、ポイ捨てしない ・ 積極的に施設や公共交通手段を利用する ・ 外国産のものではなく特産品を買うようにする ・ 飯塚のよさを伝えていく、SNS等で魅力を発信する |
| <p><u>もっとよくできるところ、なおしたいこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高速道路が遠い ・ 道路が凸凹している ・ バスの便が少ない ・ スポーツ施設が1つに集まった場所がない ・ ポイ捨てが多い ・ 夜だけ治安が悪い、外灯が少ない ・ 遊ぶ場所が少ない、中心地に集中している ・ 商店街に行く人が少ない | | <p><u>将来(大人になったら)できること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯塚の良さを伝える ・ 若い世代に飯塚のいいところを伝える ・ イベント等の運営にかかわり、市を盛り上げていく ・ 観光地、遊べる場所、有名店をつくる ・ 有名人になって飯塚市を紹介する ・ 地域の取り組みに積極的に参加する |

(4)市民ワークショップの結果

| 今の飯塚市 | 10年後の理想の姿 | 理想に向けてできること |
|---|---|---|
| <p>いいところ、自慢できること</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市へのアクセスの良さ (福岡・北九州へのアクセス、鉄道・バイパス) 医療機関が多く質も高い 子育て支援・教育資源(大学・図書館・講座)の充実 自然が豊かで食べ物・農産物が美味しい 大型商業施設や日常の買い物の便利さ 祭り・文化・スポーツイベントが多い (嘉穂劇場、車いすテニス、盆踊りなど) 人が親切・温かく、地域活動・まちづくりが活発 | <ul style="list-style-type: none"> 文教都市としての発展(公立フリースクール、体験・文化の学び、100年学び合うまち) 誰もが参加しやすい地域コミュニティ(自治会+まちづくり協議会)、透明で効率的な運営 こども・若者・高齢者の居場所や交流拠点の充実、公園・屋内遊び場の整備 交通網の高度化(バス・乗合・無人バス・柔軟な乗降、バイパス整備) 空き家・空き店舗の利活用、商店街再生、独自の目玉づくり、オシャレ度の向上 安全・安心・きれいで防災力の高いまち、犯罪が少ない 子育てしやすい環境で出生率向上、Uターン・定住促進、外国人とも共生 花いっぱいなど景観美化、地域誇りの醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ボランティアや市の委員会・イベント・ワークショップへの参加、意見発信 世代横断の交流づくり、地域のキーマン育成、公民館・図書館の活用 ごみ拾い・分別徹底・美化活動、花いっぱい運動 SNSや広報で魅力・情報拡散(ハッシュタグ、広報紙の工夫) 大学生等との連携、まちづくり大学設立、手続きのオンライン化支援 空き家紹介やリユース活用、資源循環 健康維持、地元で買い物、PTA参加、公共交通の積極利用 市・市長のリーダーシップによる目標設定、他地区の取り組み学習 |
| <p>もっとよくできるところ、なおしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 車がないと不便、公共交通の不便(接続・便数・時間帯・路線) こどもの屋内遊び場や一人で安全に行ける場所の不足 空き家の増加と未活用、商店街の衰退 夜間の街灯不足・治安不安、歩道がない・狭い・道路劣化 コミュニティの弱体化(自治会加入率低下、交流機会不足) 美術館・科学館など文化施設やランドマークの不足、観光資源の活用不足 行政の広報・情報発信・手続きのデジタル化の不足 学びの多様化支援不足(不登校対応、フリースクール等) 高齢者・免許返納後の移動や居場所の不足 ごみ分別や路上ごみなど環境面の課題 | | |

5. 第3次総合計画策定に向けての現状と課題の整理(まとめ)

| | 第2次総合計画における 主な課題 | 10年間の成果(評価) | 市民が感じる課題 | 市民が感じるいいところ | 市民が求めているもの (意見、要望、提案等) | 第3次総合計画策定に向けて 解決すべき課題 |
|-------------|--|--|---|--|---|--|
| 共通 | 総人口は、1995年から減少している。なお、高齢者がこれまで増加傾向にあったがほぼ横ばいとなっている 出生数は減少し、死亡数は増加傾向にある | 転入転出の状況をみると、2023年以降、転入者数が転出者数を上回って推移しており、その差も拡大して人口が流入している | 実施した市民意見の把握方法及び記号 ・(○) 市民意識調査(市民 6,000 人を対象に実施し、2,506 人から回答) ・(□) 市民ワークショップ(市内中学生 22 名、市民 43 名が参加して実施) ・(△) まちづくり意向調査(各種委員就任を依頼している企業や団体、市役所の業務に係のある企業や団体を対象に実施し、74 の企業団体から回答) | | | |
| 第1章 人権・市民参画 | 【目標達成指標】 自治会加入率の低下 交流センターの指定管理導入 ホームページアクセス数 | 【目標達成指標】 地区公民館のコミュニティセンター化 【事業等の実施状況】 飯塚市協働のまちづくり推進条例の施行(R2) まちづくり協議会の法人化(2地区)(R7) 公式LINEのリニューアル(R5) | 【市民ワークショップ意見】 □コミュニティの弱体化 【調査意見】 △市民に分かりやすい情報発信 | 【施策の満足度】 ○情報共有の推進(第4位) 【市民ワークショップ意見】 □やさしい人が多い、人が親切 □まちづくりが活発 | 【市民ワークショップ】 □差別がない社会にやさしいまち □人同士のつながりが深いまち □誰もが参加しやすい地域コミュニティ、透明で効率的な運営 【まちづくり意向調査意見】 △自治会の加入率増加、支援強化 △若い世代の声の反映、気軽に意見を言える場の設置 △人を大切にするまちづくり △多文化共生 △バリアフリー施策の継続 | <u>地域コミュニティ活動の維持</u> <u>市民と行政の対話機会の充実</u> <u>共生社会の実現</u> |
| 第2章 行政経営 | 【目標達成指標】 派遣研修受講率の向上 | 【目標達成指標】 行財政改革の推進 公民連携事業の増加 単年度収支の黒字維持 未収金の減額 基金残高の確保 【事業等の実施状況】 電子入札システムの導入(R3) 飯塚市人材育成・確保基本方針の策定(R6) | 【施策の不満足度】 ○財政の健全化(第5位) 【市民ワークショップ意見】 □行政の広報や情報発信、手続きのデジタル化の不足 【まちづくり意向調査意見】 △収支のバランスと税収の確保 △行政職員の確保及び育成 | | 【まちづくり意向調査意見】 △行財政改革の推進 △行政と地域、大学、各種団体との連携推進 | <u>健全な財政基盤の維持</u> <u>人材の確保・育成</u> |
| 第3章 健康・子育て | 【目標達成指標】 特定健診受診率の向上 認知症サポーター数の増加 フレイル予防サポーター数の増加 手話奉仕者養成講座基礎課程修了者数の増加 子育てしやすいまちと評価する人の割合の増加 | 【目標達成指標】 健康寿命の延伸 一人当たり医療費の増加抑制 市立病院の救急車受入件数の増加 【事業等の実施状況】 健康ポイント事業の開始(R1) 子ども家庭センターの設置(R6) | 【市民ワークショップ意見】 □こどもの屋内遊び場や一人で安全にいける場所の不足 □高齢者の移動支援や居場所の不足 【まちづくり意向調査意見】 △誰もが(特に、子どもや高齢者)安心して過ごせる環境 △高齢者の移動手段の確保 △健康などに関する意識啓発 | 【施策の満足度】 ○保健・医療の充実と連携(第2位) 【住みやすい点】 ○病院や福祉施設が充実している(第5位) 【市民ワークショップ意見】 □医療機関が多く質も高い □子育て支援や教育資源が充実している | 【施策の重要度】 ○保健・医療の充実と連携(第1位) 【市民ワークショップ】 □こどもが気軽に安心して遊べる場の整備 □子ども・若者・高齢者の居場所や交流拠点の充実 【まちづくり意向調査意見】 △こどもが生き生きと過ごせる環境の整備 | <u>健康のまちづくり</u> <u>多様なニーズに対応した子育て支援</u> <u>誰もが安心して住みつけられるまちづくり</u> |

| | 第2次総合計画における 主な課題 | 10年間の成果(評価) | 市民が感じる課題 | 市民が感じるいいところ | 市民が求めているもの (意見、要望、提案等) | 第3次総合計画策定に向けて 解決すべき課題 |
|---------------|--|---|--|--|--|--|
| 第4章 地域経済 | <p>【目標達成指標】 担い手農家への農地集積率の増加 日本型直接支払制度取組組織数の増加 観光客消費額、観光入込客数の増加 若者仕事サポートセンター 筑豊ランチ相談者数及び就職者数の増加</p> | <p>【目標達成指標】 集落営農組織及び農事組合法人数の増加 市内新規雇用創出人数の増加 企業誘致等支援数の増加 プロジェクト創出件数の増加</p> <p>【事業等の実施状況】 いづかブランド認定制度(R3) 飯塚市ブロックチェーン推進宣言(R3) 新規創業支援金融融資制度(R6)</p> | <p>【施策の不満足度】 ○商業の振興(第1位) ○観光の振興(第3位) ○就労支援の充実と労働環境の整備(第4位)</p> <p>【住みにくい点】 ○まちに活気がない(第2位) ○働く場所がない(第3位) ○買い物が不便である(第4位) ○レクリエーションの場が少ない(第5位)</p> <p>【市民ワークショップ意見】 □商店街に行く人が少ない □観光資源の活用不足 【まちづくり意向調査意見】 △農業者の担い手不足</p> | <p>【住みやすい点】 ○買い物が便利である(第1位)</p> <p>【市民ワークショップ意見】 □商業施設などが充実している □農産物がおいしい</p> | <p>【市民ワークショップ】 □外からたくさん人が集まってくる □様々な人との交流がある □商店街の再生や独自の目玉づくり</p> <p>【まちづくり意向調査意見】 △他自治体との差別化 △新規就農支援、耕作放棄地対策 △地場企業の人材確保 △大学生等の地元就職啓発 △商店街の活性化 △若年層の流出防止</p> | <p><u>農業担い手の確保と生産性の向上</u></p> <p><u>地場企業における人材の確保・定着</u></p> <p><u>商店街の再生や活性化</u></p> <p><u>観光まちづくりの推進</u></p> |
| 第5章 教育・文化 | <p>【目標達成指標】 新体カテスト全国平均値突破項目の増加 MIMアセスメントにおいて3rdステージ対象児童の割合の減少 スポーツ推進委員数の増加 文化・芸術に関して満足している市民の割合の増加</p> | <p>【目標達成指標】 全国学力・学習状況調査の正答率向上</p> <p>【事業等の実施状況】 学校運営協議会の設置完了(R6) 校内教育支援センターの設置 飯塚市総合体育館の開館(R5)</p> | <p>【市民ワークショップ意見】 □学びの多様化への支援不足(不登校対応、フリースクール) □美術館など文化施設の不足</p> <p>【まちづくり意向調査意見】 △変化に対応できることを育てる教育の推進</p> | <p>【市民ワークショップ意見】 □祭りや文化・スポーツイベントが多い</p> | <p>【市民ワークショップ】 □文教都市としての発展</p> <p>【まちづくり意向調査意見】 △学校と市の連携強化 △教育施設・設備の整備 △文化施設やイベントの充実</p> | <p><u>学力及び体力の維持向上</u></p> <p><u>学びの多様化への対応</u></p> <p><u>文化・芸術が盛んな都市づくり</u></p> |
| 第6章 都市基盤・生活基盤 | <p>【目標達成指標】 防災に関する訓練・研修の実施回数の増加 消防団員充足率の増加</p> | <p>【目標達成指標】 刑法犯認知件数の減少 交通事故発生件数の減少 防犯灯設置本数の増加 コミュニティ交通利用者数の増加 移住の促進 道路の整備・補修の実施</p> <p>【事業等の実施状況】 ハザードマップの配布(H31)</p> | <p>【施策の不満足度】 ○定住環境・公共交通の充実(第2位)</p> <p>【住みにくい点】 ○交通の便がよくない(第1位)</p> <p>【市民ワークショップ意見】 □道路が凸凹している □車がないと不便、公共交通が不便 □外灯が少ない □空き家の増加と未活用</p> <p>【まちづくり意向調査意見】 △空き家対策 △インフラの老朽化対策や跡地活用、自然災害への対策</p> | <p>【施策の満足度】 ○公園・緑地の整備(第1位) ○消防・救急体制の充実(第3位)</p> <p>【住みやすい点】 ○自然災害が少ない(第2位)</p> <p>【市民ワークショップ意見】 □交通アクセスがよい</p> | <p>【施策の重要度】 ○災害・減災対策の充実(第2位) ○消防・救急体制の充実(第3位) ○生活安全の向上(第4位) ○上下水道の整備(第5位)</p> <p>【市民ワークショップ】 □交通網の高度化(バス、道路) □空き家や空き店舗の有効活用 □防災力の高いまち</p> <p>【まちづくり意向調査意見】 △高齢者・障がい者も利用しやすい交通網の整備 △防犯カメラ設置の促進 △外灯の増設</p> | <p><u>誰もが利用しやすい公共交通</u></p> <p><u>防災体制の維持</u></p> <p><u>生活安全の確保</u></p> <p><u>上下水道の計画的な更新</u></p> |
| 第7章 自然環境 | <p>【目標達成指標】 荒廃森林整備面積の増加 リサイクル率の増加</p> | <p>【目標達成指標】 ボランティア清掃参加者数の増加 合併浄化槽普及率の増加</p> <p>【事業等の実施状況】 新たなごみ処理施設建設に向けた準備</p> | <p>【市民ワークショップ意見】 □ゴミ分別や路上ごみ対策</p> <p>【まちづくり意向調査意見】 △鳥獣害の防止</p> | <p>【住みやすい点】 ○自然環境がよい(第3位)</p> <p>【市民ワークショップ意見】 □自然が豊かである</p> | <p>【市民ワークショップ】 □花いっぱいなど環境美化</p> <p>【まちづくり意向調査意見】 △環境保全意識の啓発</p> | <p><u>ごみ減量化・リサイクルの推進</u></p> <p><u>自然環境の維持</u></p> |